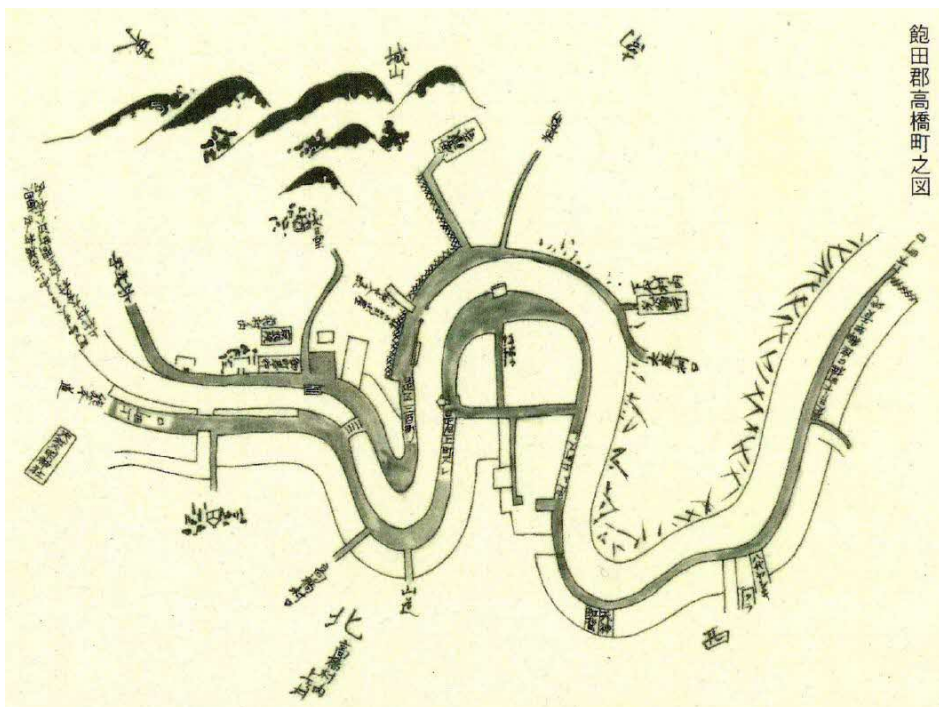


城山校区、高橋校区の データ資料

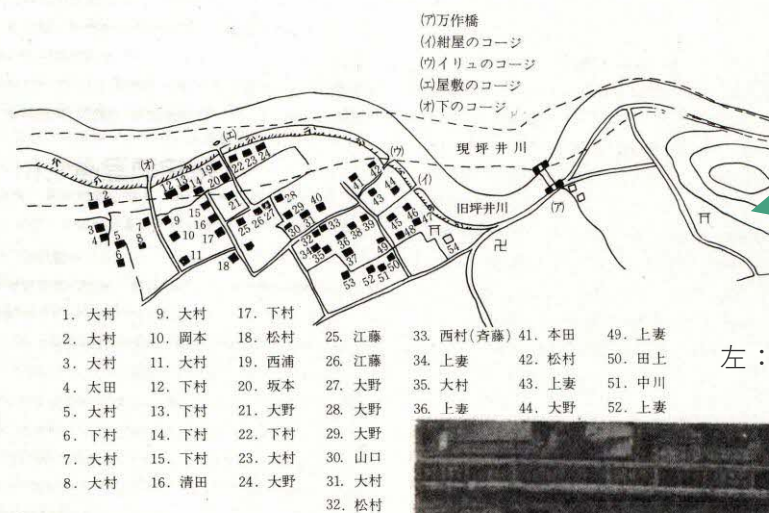
古くから集落が形成された地域で、貝塚や古墳が複数発掘されています。高橋港を中心に発展し、かつては坪井川と結びつきの深い暮らしが行われていました。

昭和初期、中期に坪井川の改修が行われ、現在に至ります。

飽田郡高橋町之図



上：『平成肥後国誌(上)』より引用 熊本市歴史文書資料室所蔵本



右：『高橋の百年』より引用
熊本市歴史文書資料室所蔵本

コージ (川への下り口)

川は、野菜洗い、馬の手入れ、水泳場、川魚漁など日常生活の場として使われていた。

左：『城山の歴史』より引用
熊本市歴史文書資料室所蔵本

なぐさみ舟

お盆過ぎの地域の慰安行事。町内総出で屋形ごしらえをした「ひらた舟」に乗り込んで、1年のうさを晴らす行事



なぐさみ船 (昭31.11)

城山上代城

じょうやま

- ・ **城山（標高47m）に城跡があり、本丸跡は西側の水源地のあるところ、東側の水源地のあたりが二の丸です。（山頂に城跡の石碑あり）**
- ・ **東西約80m、南北約100mの広さに隈本城の出城として築城されました。本丸跡は「関（とき）の声」と呼ばれています。**

- ・ 上代城は鹿子木親員入道寂心が築き、その子民部大輔親俊が在城したとも、寂心が隈本城にいたころは今福民部（刑部）が城代であったとも云い、のち隈本城を城越前守親賢にゆずって、寂心は子の親俊とこの城にいた。
- ・ 天文19(1550)年、寂心の曾孫鑑国が大友宗麟に判して敗れて上代城に潜み、天正10(1551)年5月5日落去したと云う。
- ・ 親俊と寂心の死後は城親賢の出城になった。天正8(1580)年春、大友宗麟に従った阿蘇氏の甲斐宗運は龍造寺隆信に従った鹿子木城、隈本城、高橋城と島津氏に従った宇土城、川尻城と白川の旦過瀬で戦い、甲斐宗運は龍造寺勢をうち破り、島津方の宇土、川尻勢は後続部隊の役目もはたさず、薬師町の淵をわたって退却した。
(『平成肥後国誌(上)』より引用 熊本市歴史文書資料室所蔵本)
- ・ 高橋稻荷神社は明応5(1496)年隈本（熊本）城主鹿子親員が上代城を築いた時、城の鎮護のために京都の伏見稻荷より勧進したものと伝える。はじめは「ときの声」（上代城跡）に鎮座されたというが、久しく退転の後、寛政元(1661)年11月首座吉本義本の霊夢によって、山の南腹にあった岩穴の地に遷座された。現在の神社はその場所に位置している。

『新熊本市史 別編第1巻絵図・地図下
近代・現代』より引用
熊本市歴史文書資料室所蔵本

※上記より抜粋し、貼り合わせたもの
(位置、縮尺は任意で調整)

飽田郡大塘村

飽田郡高橋町

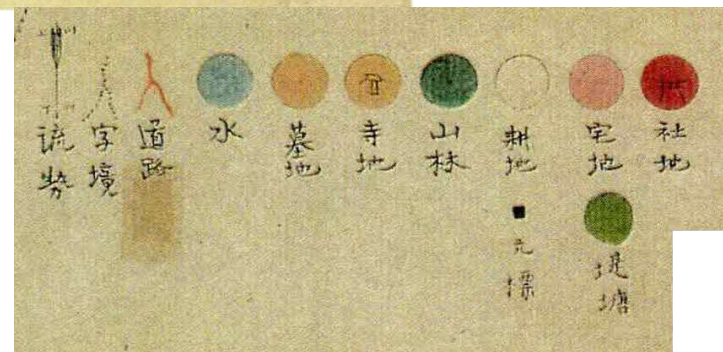
熊本
縣
管
轄

飽田郡下代村

飽田郡上代村

飽田郡半田村

飽田郡薬師町村



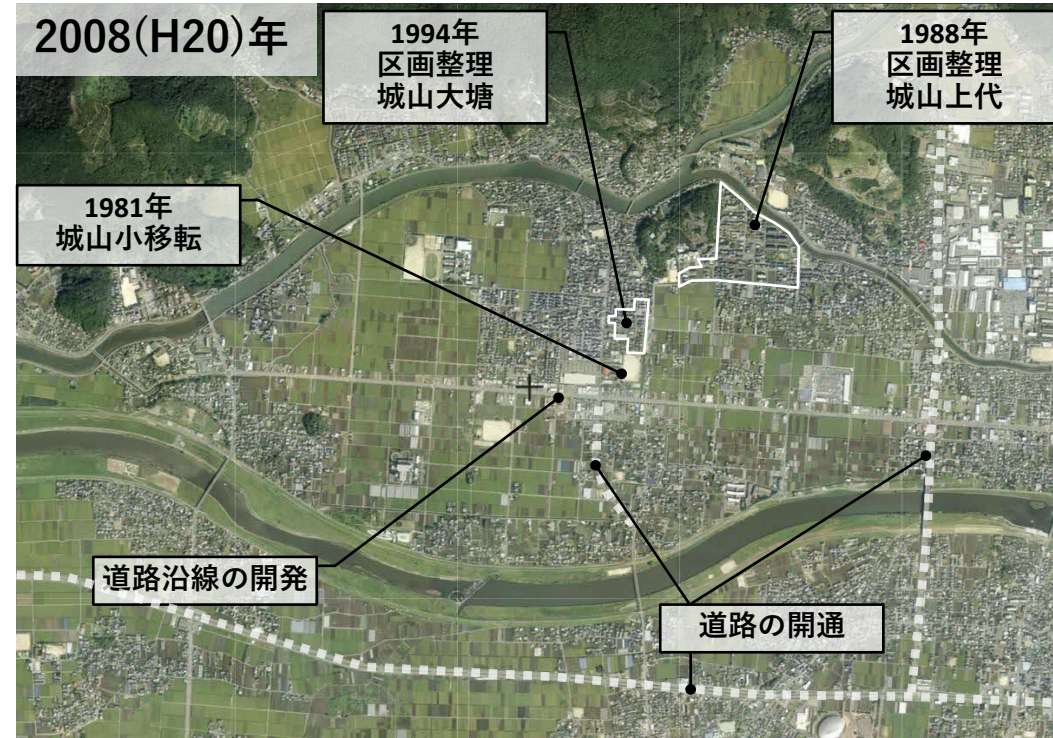
航空写真でみるまちの変遷

(出典：国土地理院)

1961(S36)～1969(S44)年



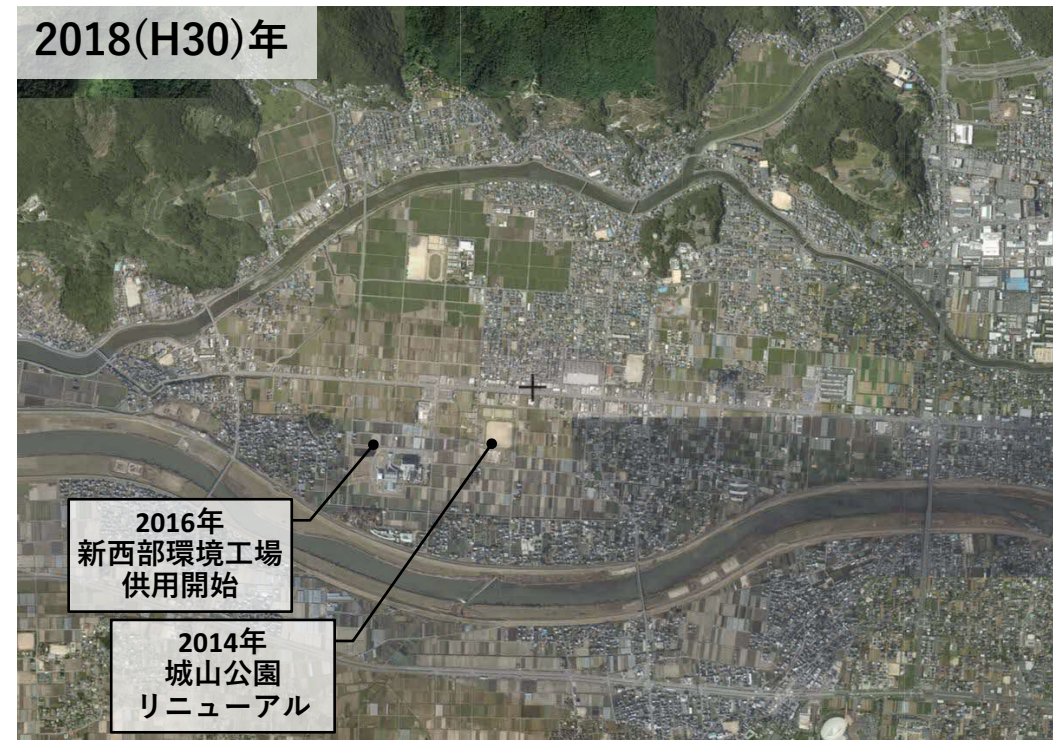
2008(H20)年



1974(S49)～1978(S53)年



2018(H30)年



人口

城山校区 10,922人、高橋校区 368人 (R5年10月現在)

- 城山校区は区内で3番目に多い (池田校区、城西校区に次ぐ)

高齢化率

城山校区 26.1%、高橋校区 41.6%

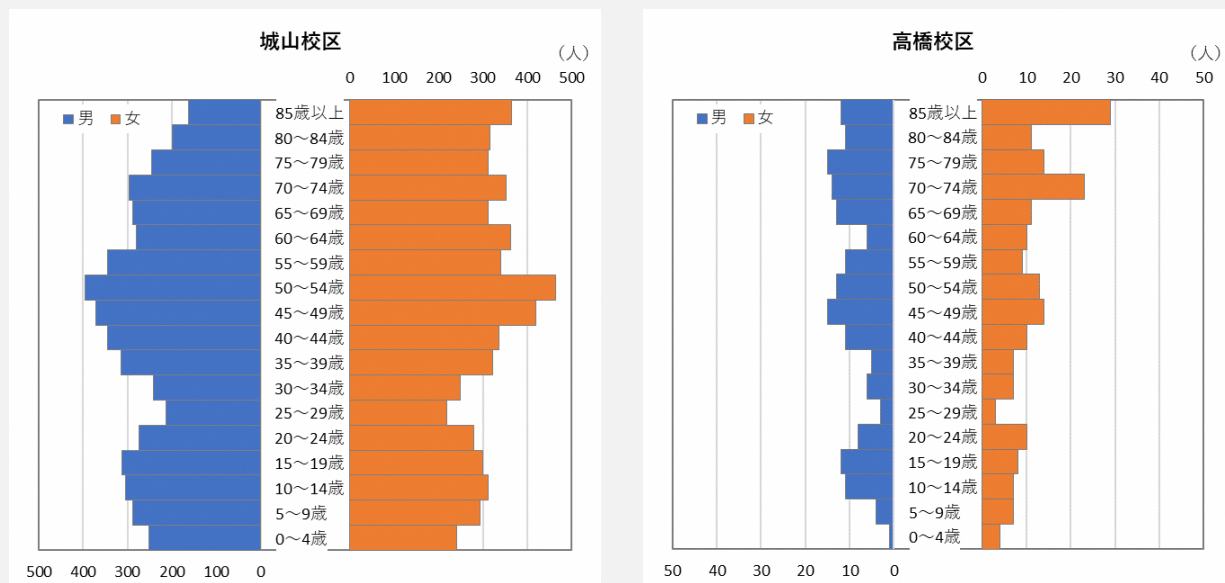
- 城山校区は区内で2番目に低い (春日校区に次ぐ)

- 高橋校区は区内で3番目に高い (芳野校区、河内校区に次ぐ)

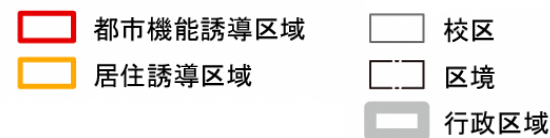
年齢別人口

子育て世代が多く、20歳代後半～30歳代前半が少ない

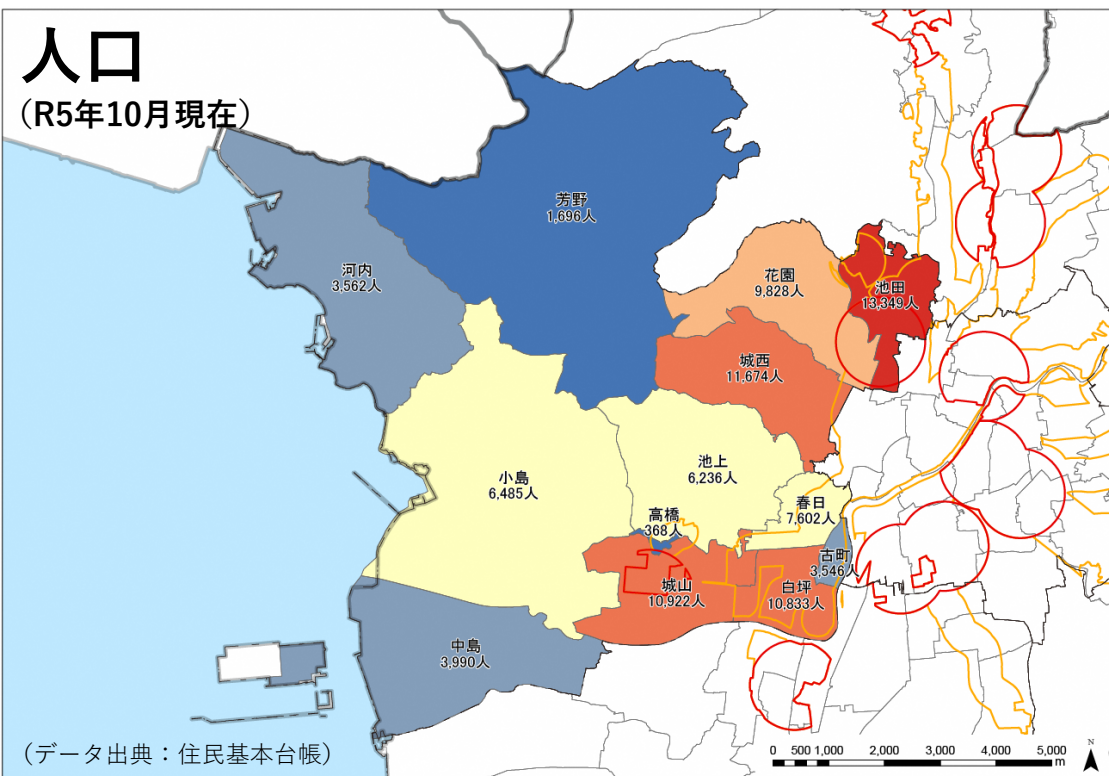
年齢別人口 (R5年10月現在)



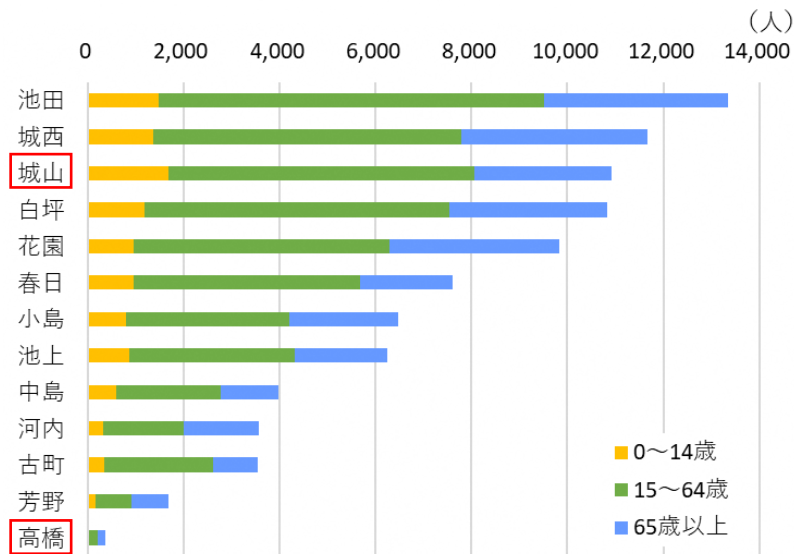
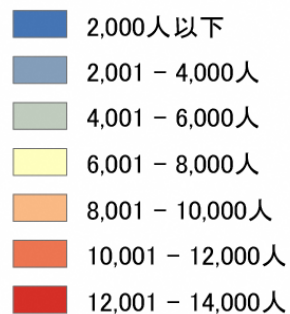
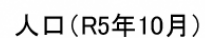
人口



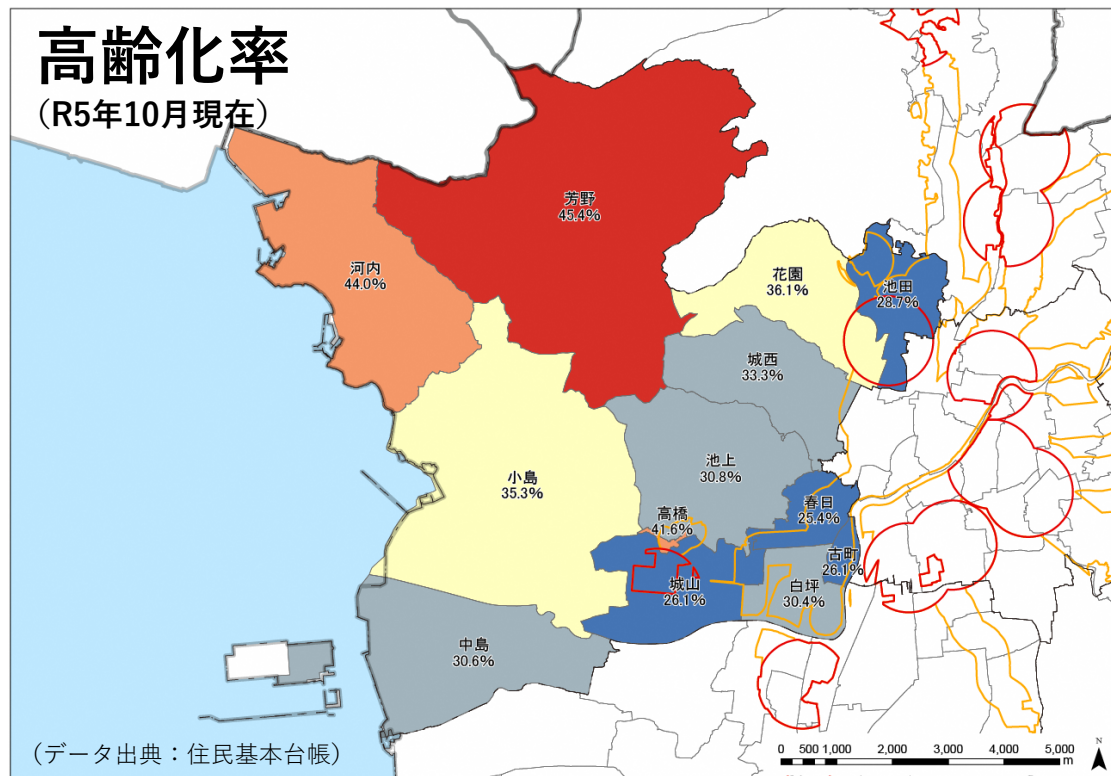
(R5年10月現在)



(データ出典：住民基本台帳)

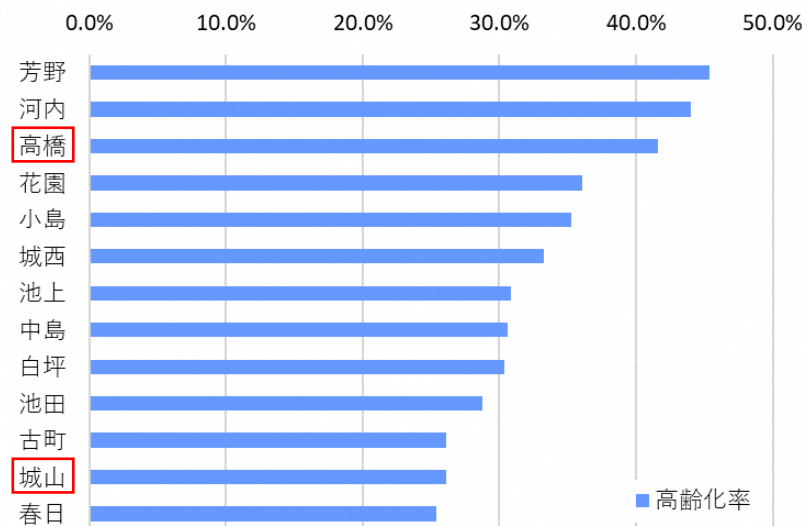
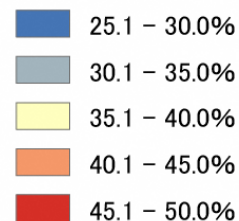


(R5年10月現在)



(データ出典：住民基本台帳)

高齡化率(R5年10月)



過去10年の人口増減率（R5年10月現在）

城山校区 1.7%、高橋校区 -13.2%

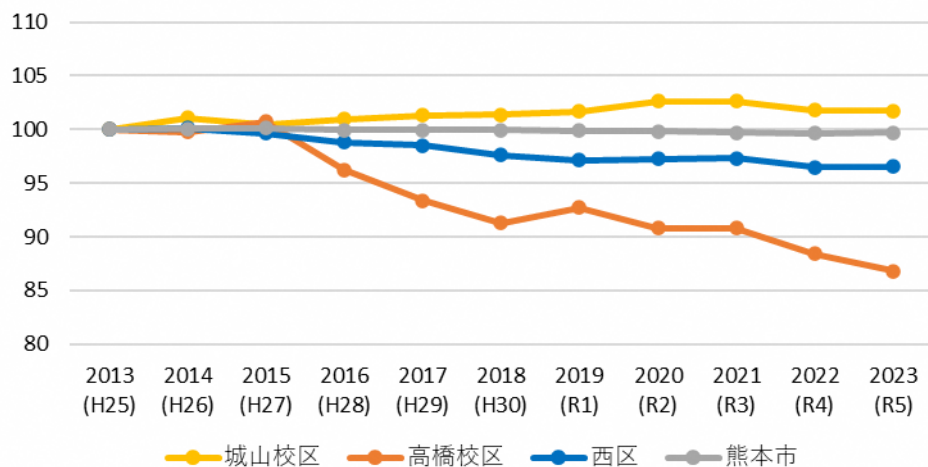
- 城山校区は区内で3番目に高い（春日校区、古町校区に次ぐ）
- 高橋校区は区内で3番目に低い（河内校区、芳野校区に次ぐ）

住宅の建築年代

城山校区は比較的新しい建物の割合が高い

人口の推移

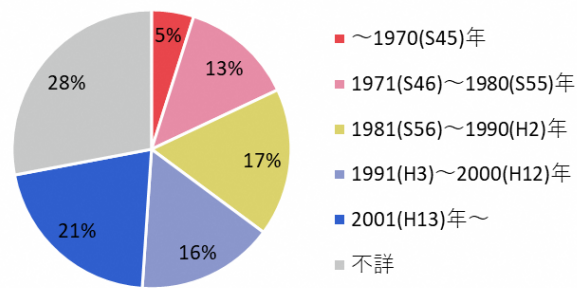
H25年を100としたときの増減（指数）



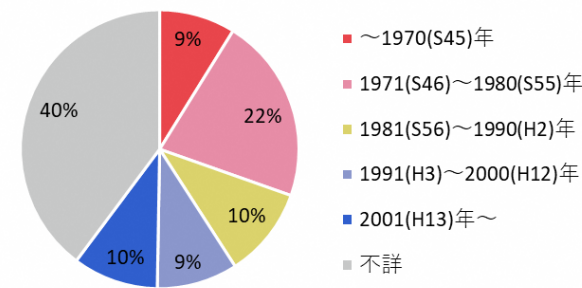
（データ出典：住民基本台帳）

住宅の建築年代

城山校区



高橋校区



（データ出典：R3都市計画基礎調査）

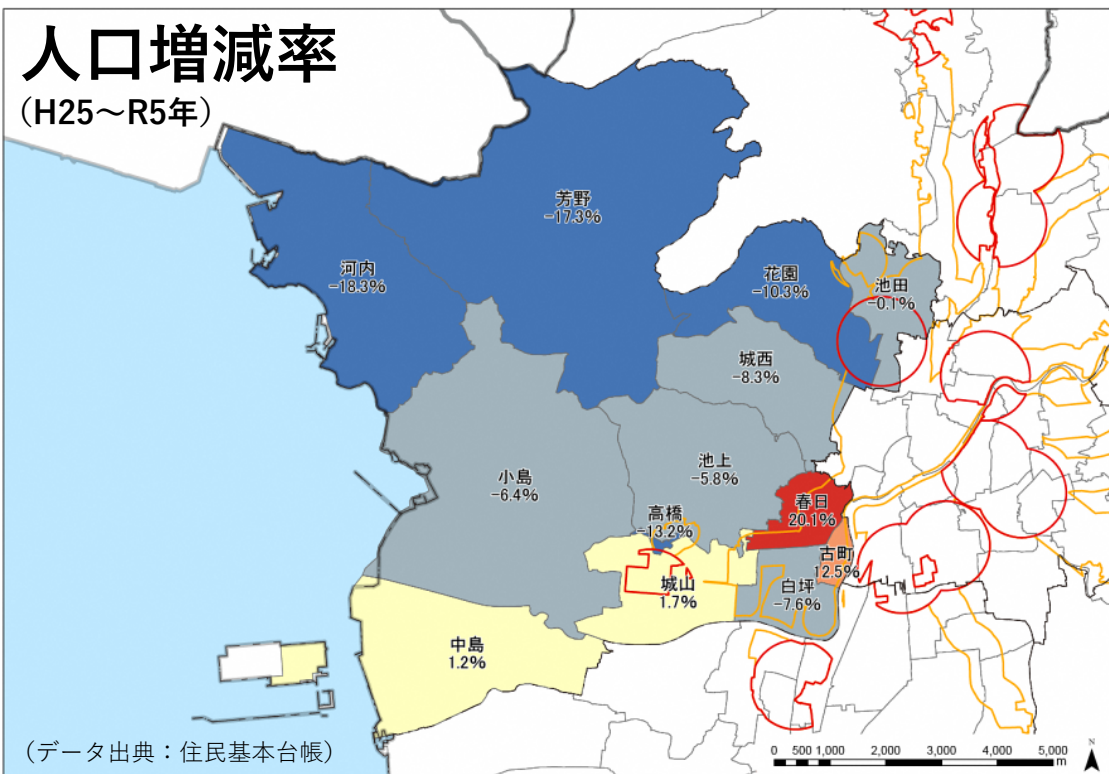
地域の現状 (西区全体)

人口

- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 校区
- 区境
- 行政区域

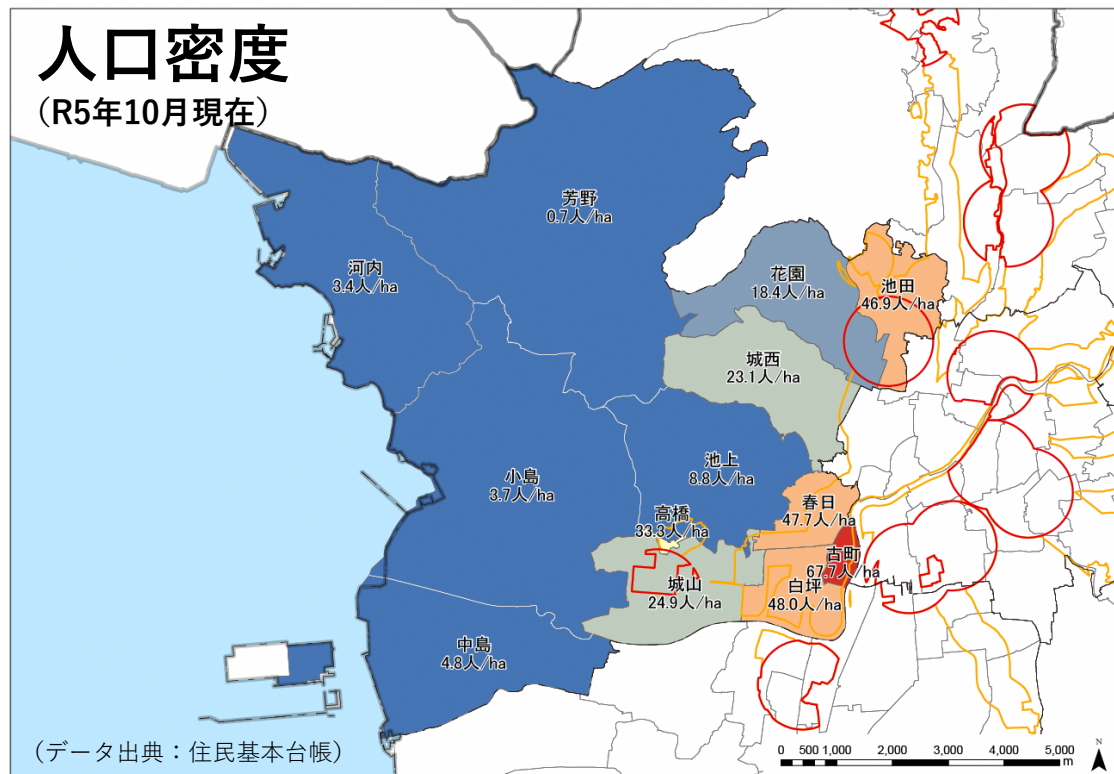
人口増減率

(H25～R5年)



人口密度

(R5年10月現在)



人口増減率 (H25～R5)

-20.0% 0.0% 20.0% 40.0% 60.0% 80.0% 100.0%

- 10.0%以下
- 9.9 - 0.0%
- 0.1 - 10.0%
- 10.1 - 20.0%
- 20.1%以上

春日
古町
城山
中島
池田
池上
小島
白坪
城西
花園
高橋
芳野
河内

人口増減率(H25～R5年)

人口密度 (R5年10月)

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0

- 10.0人/ha以下
- 10.1 - 20.0人/ha
- 20.1 - 30.0人/ha
- 30.1 - 40.0人/ha
- 40.1 - 50.0人/ha
- 50.1 - 60.0人/ha
- 60.1 - 70.0人/ha

古町
白坪
春日
池田
高橋
城山
城西
花園
池上
中島
小島
河内
芳野

人口密度(人/ha)

※小島校区のH25～28年に、
松尾北、松尾東、松尾西
校区分を含む

地域の現状

(城山校区・高橋校区周辺)

人口

人口密度

城山校区 24.9人/ha、
高橋校区 33.3人/ha (R5年10月現在)

- 区内で5・6番目 (13校区中)

(データ出典：住民基本台帳)

戸建て住宅が多く、坪井川～県道28号線間の
市街化区域で人口密度が高くなっている

凡例

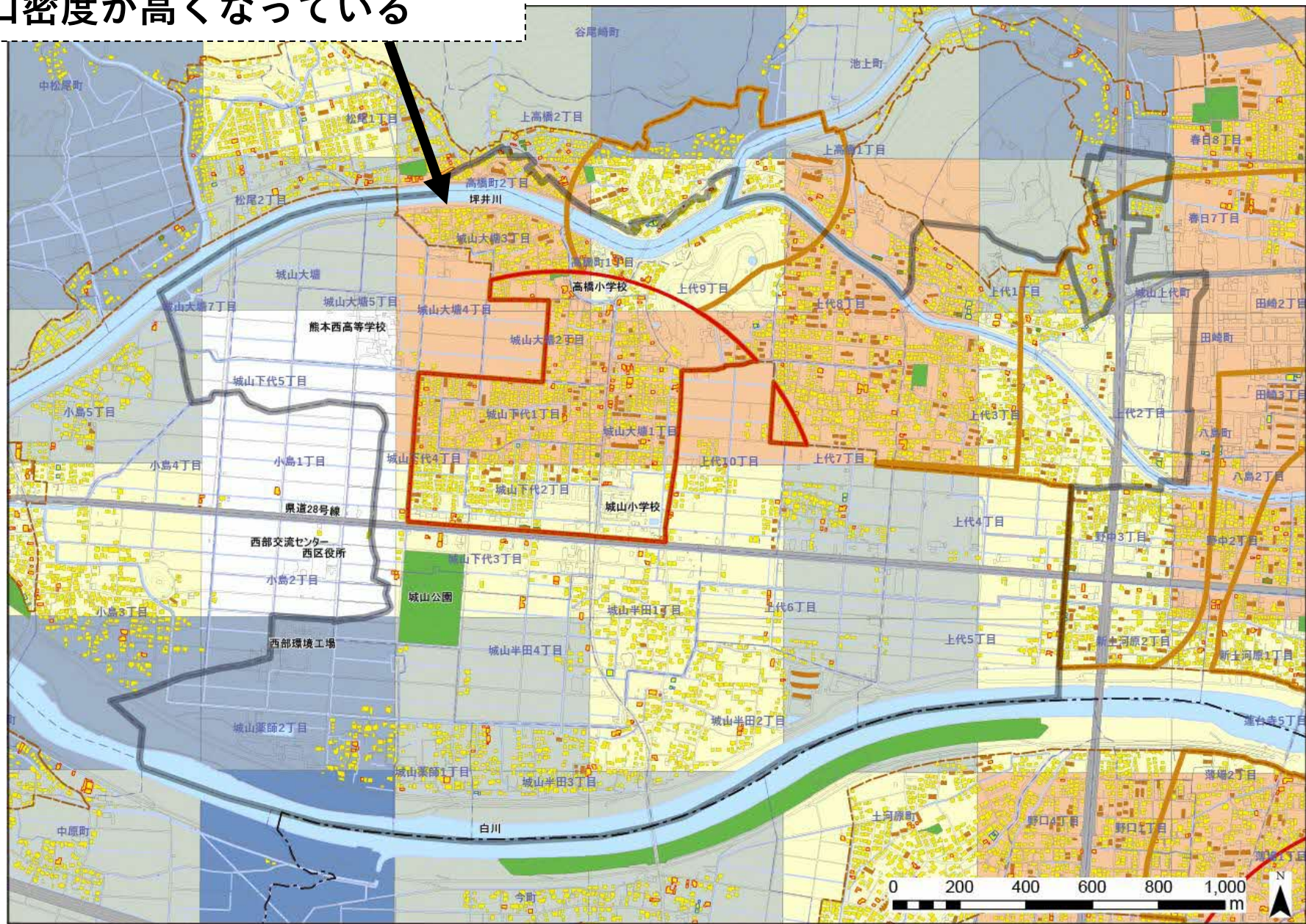
- 城山校区・高橋校区
- 区境
- 町丁目境
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 市街化区域

人口密度 (R2年) (国勢調査)

- 4.0人/ha以下
- 4.1 - 8.0人/ha
- 8.1 - 20.0人/ha
- 20.1 - 40.0人/ha
- 40.1 - 80.0人/ha
- 80.1 - 120.0人/ha
- 120.1 - 200人/ha

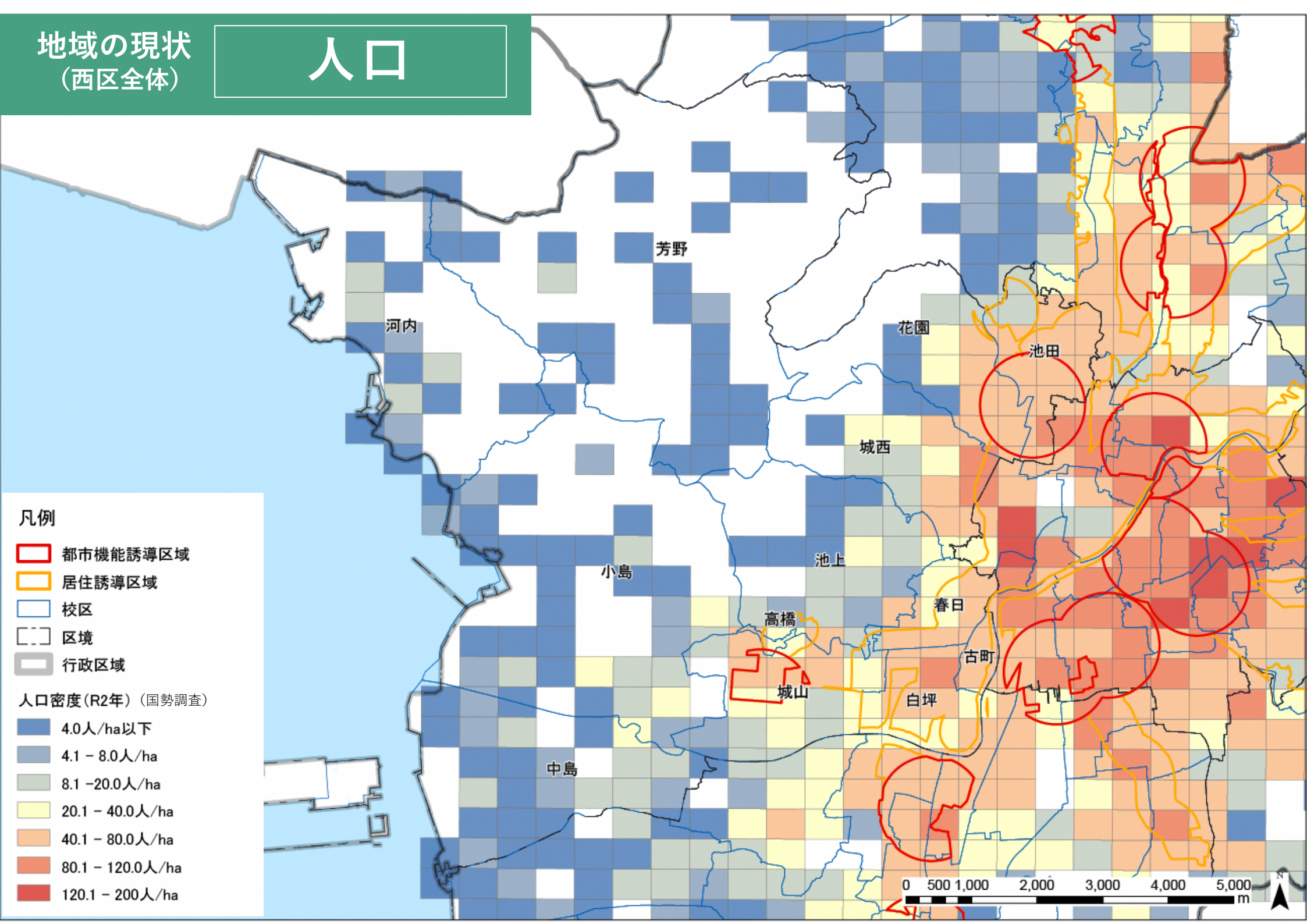
建物用途 (R3都市計画基礎調査)

- 戸建て住宅
- 戸建て住宅(店舗等併用)
- 戸建て住宅(作業所併用)
- 共同住宅
- 共同住宅(店舗等併用)
- 公園



地域の現状 (西区全体)

人口



地域の現状

(城山校区・高橋校区周辺)

都市計画

用途地域とは、都市の環境保全や利便の増進のために、都市を住居系、商業系、工業系など13種類に区分し、それぞれ建てることのできる建築物等の用途の制限を定めるものです。

凡例

- 城山校区・高橋校区
- 区境
- 町丁目境
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 市街化区域

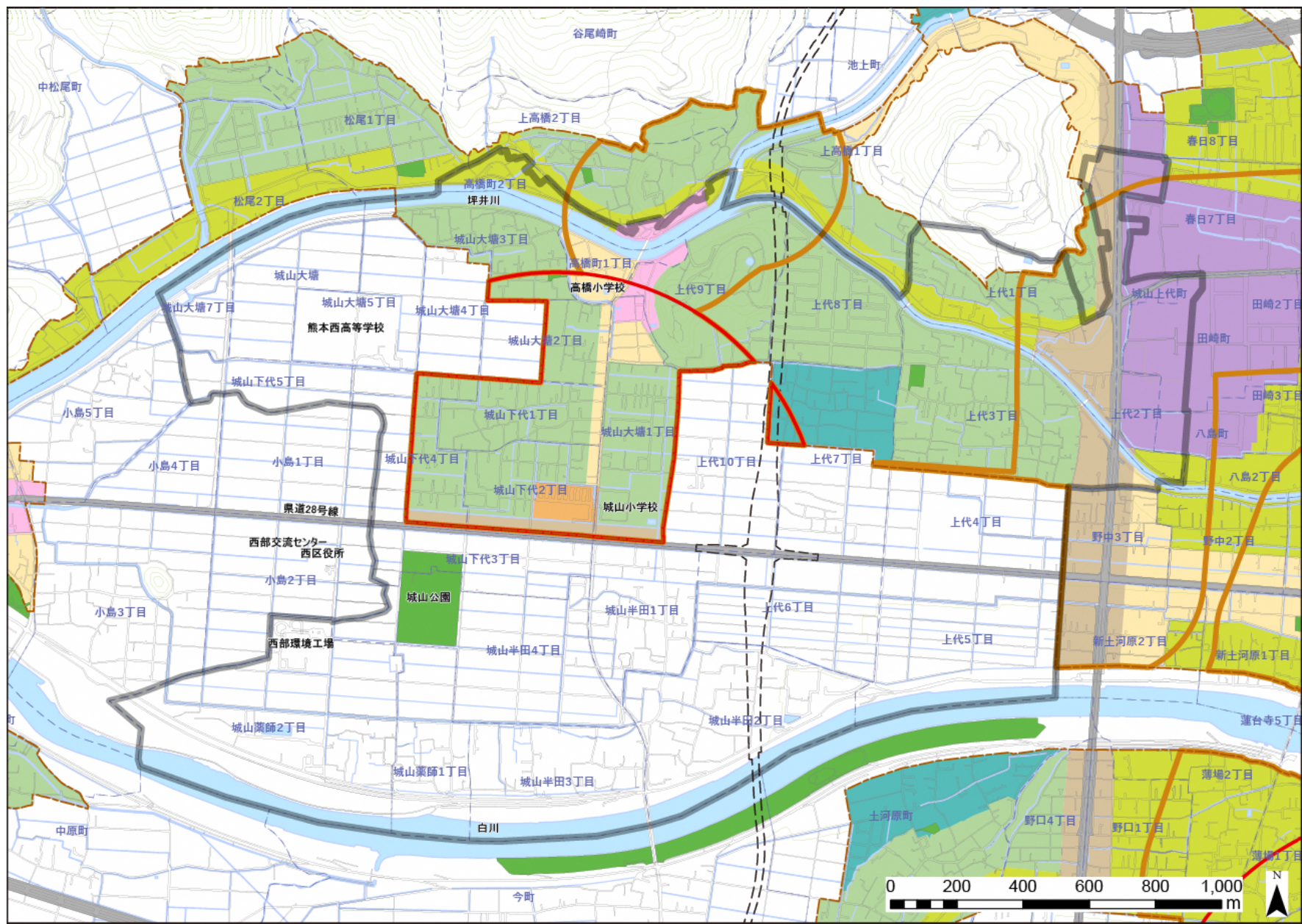
用途地域

- 第一種低層住居専用地域
- 第二種低層住居専用地域
- 第一種中高層住居専用地域
- 第二種中高層住居専用地域
- 第一種住居地域
- 第二種住居地域
- 準住居地域
- 近隣商業地域
- 商業地域
- 準工業地域
- 工業地域

都市施設

- 都市計画道路(現道なし)
- 公園

- 用途地域は住居系の割合が高い。
- 南北の通り沿いは第一種住居地域や近隣商業地域、県道28号線沿いは準住居地域が指定されている。



地域の現状

(城山校区・高橋校区周辺)

都市施設

地域内に一通りの施設が分布している。
(民間施設は県道28号線沿いに多く立地)

施設

- 商業施設
- ✚ 医療施設(病院)
- ✚ 医療施設(診療所)
- 医療施設(歯科)
- 金融施設(銀行)
- 金融施設(郵便局)
- 集会施設(公民館、コメン等)
- 高齢者福祉施設(老人福祉センター、老人憩いの家)
- 幼稚園、保育園等
- 子育て支援施設

土地利用 (R3都市計画基礎調査)

- 田
- 畑
- 山林
- 水面
- その他の自然地
- 住宅用地
- 商業用地
- 工業用地
- 公共公益施設用地
- 道路用地
- 交通施設用地
- 公共用地
- その他公共施設用地
- 農林漁業施設用地
- その他の空地
- 道路
- 公園

データ出典:

商業施設、金融施設: 立地適正化計画 (R1年度)

医療施設: 熊本市オープンデータ (R3年3月)

集会施設、福祉施設、子育て支援施設: 熊本市施設白書 (R4年3月)

幼稚園、保育園等: 熊本県ホームページ (R4年4月)



(城山校区·高橋校区周辺)

交通

バスは、校区の北を通る路線の便数が多い。
白川沿いはバス路線がなく公共交通不便地域となっている。

凡例

城山校区·高橋校区

□□ 区境

町丁目境

 都市機能誘導区域

 居住誘導区域

市街化区域

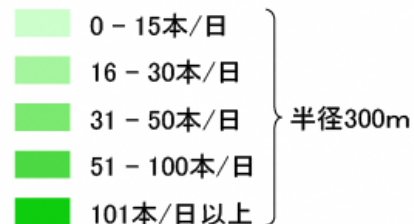
交通

 バス停・バス路線

バス乗降者数(平日)(R3年度)



バス便数(平日)(R4年6月)

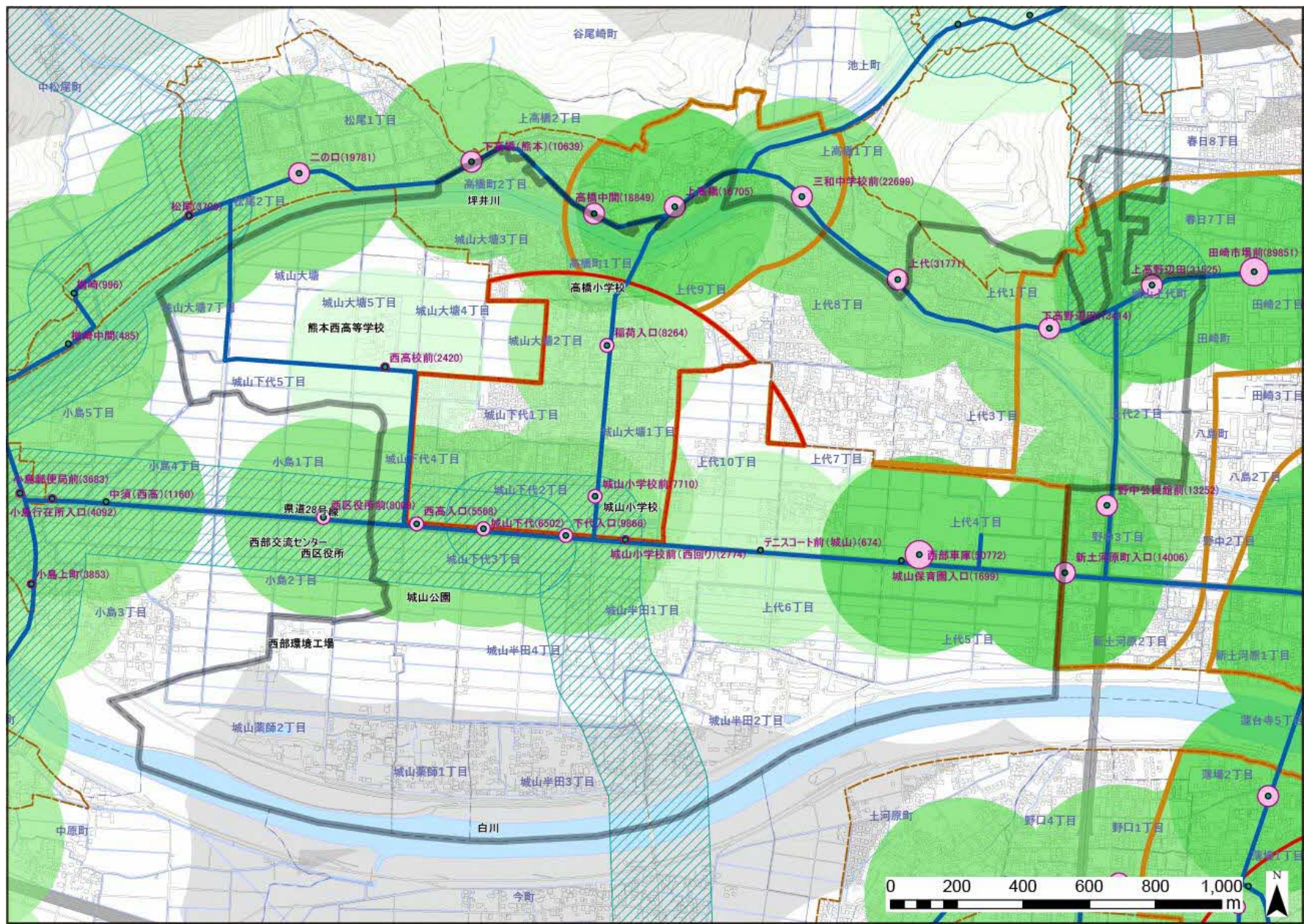
 コミュニティ交通エリア

公共交通不便地域

(バス停からの距離が半径500m以上1km未満の地域)

公共交通空白地域 ※該当なし
(バス停からの距離が半径1km以上の地域)

(データ出典：熊本市提供データ)



地域の現状 (西区全体)

交通

凡例

- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 校区
- 区境
- 行政区域

交通

- バス停・バス路線

バス乗降者数(平日)(R3年度)

- 0 - 2,000人
- 2,001 - 5,000人
- 5,001 - 10,000人
- 10,001 - 50,000人
- 50,001人以上

バス便数(平日)(R4年6月)

- 0 - 15本/日
 - 16 - 30本/日
 - 31 - 50本/日
 - 51 - 100本/日
 - 101本/日以上
- 半径300m

- コミュニティ交通エリア

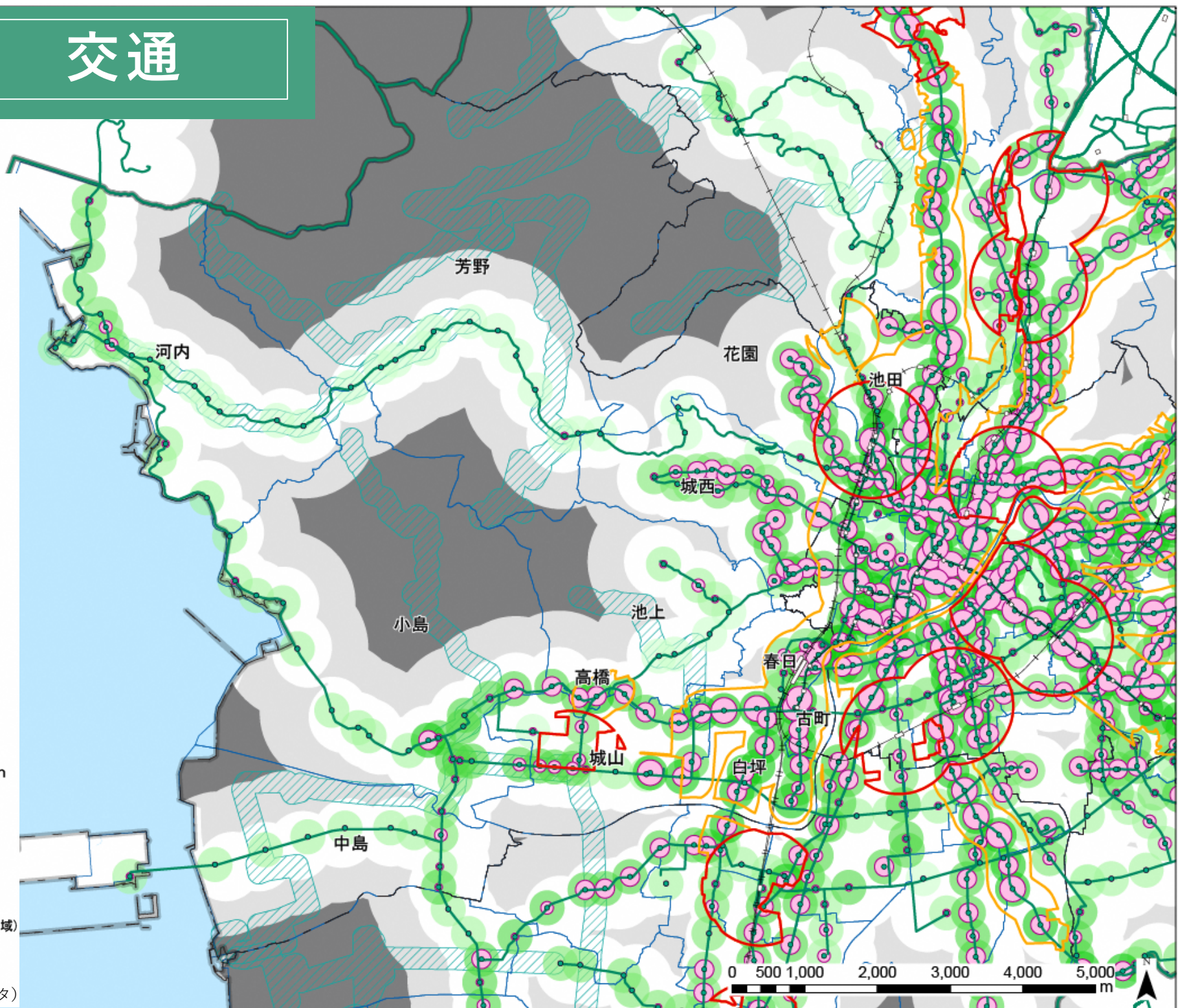
- 公共交通不便地域

(バス停からの距離が半径500m以上1km未満の地域)

- 公共交通空白地域

(バス停からの距離が半径1km以上の地域)

(データ出典：熊本市提供データ)



地域の現状

(城山校区・高橋校区周辺)

防災(洪水)

- ・洪水による浸水想定では、3m未満の浸水想定区域が広くみられる。
- ・低層の住宅が多く、避難場所は学校・区役所等が位置付けられている。

凡例

■ 城山校区・高橋校区

□ 区境

□ 町丁目境

■ 都市機能誘導区域

■ 居住誘導区域

■ 市街化区域

● 指定避難所・一時避難所

● 消防団機械倉庫

— 幅員4m未満の道路

建物の地上階数

■ 1階

■ 2階

■ 3階以上

想定浸水深(洪水L2)

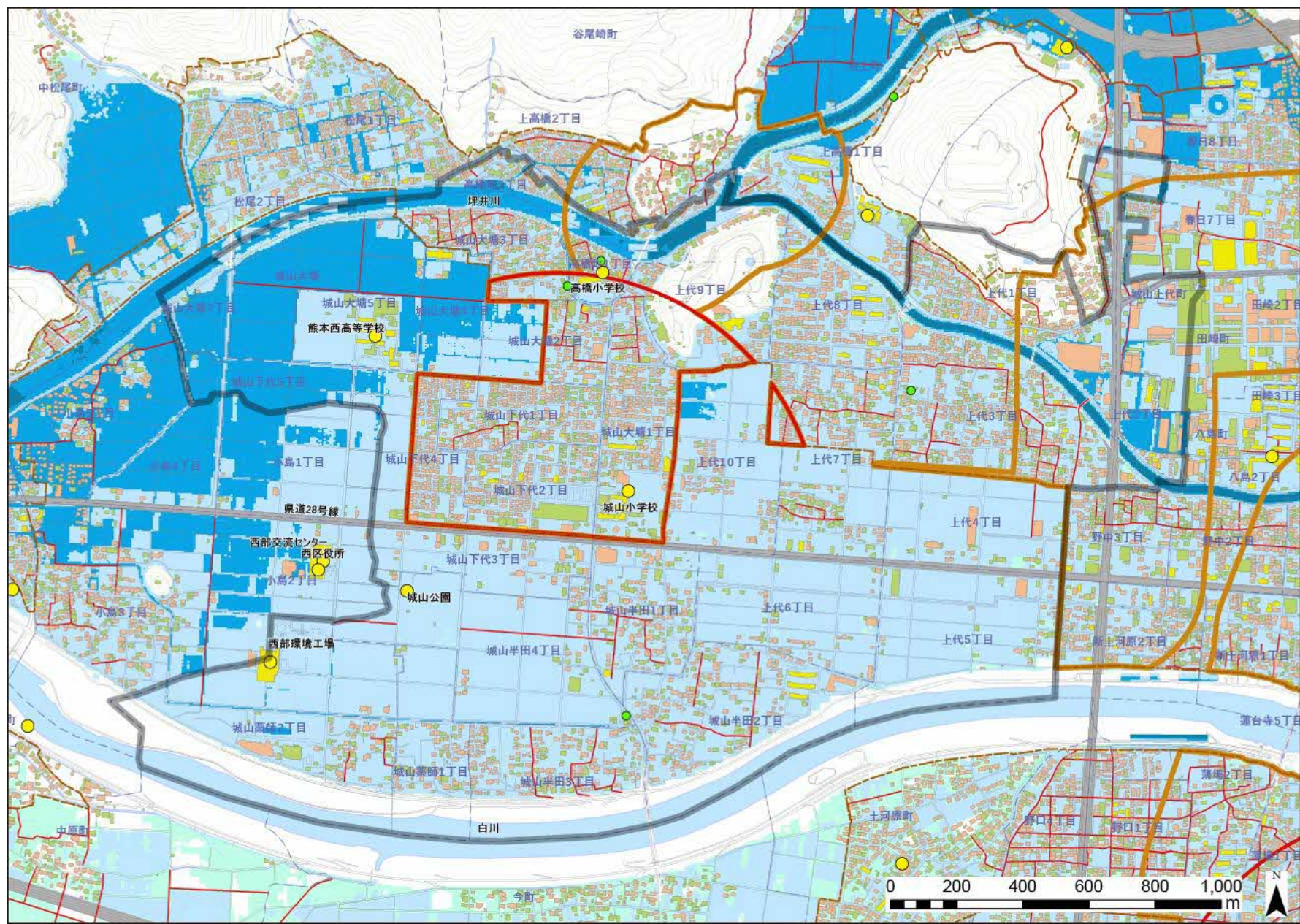
■ - 0.5m以下

■ 0.51 - 3.0m

■ 3.1 - 5.0m

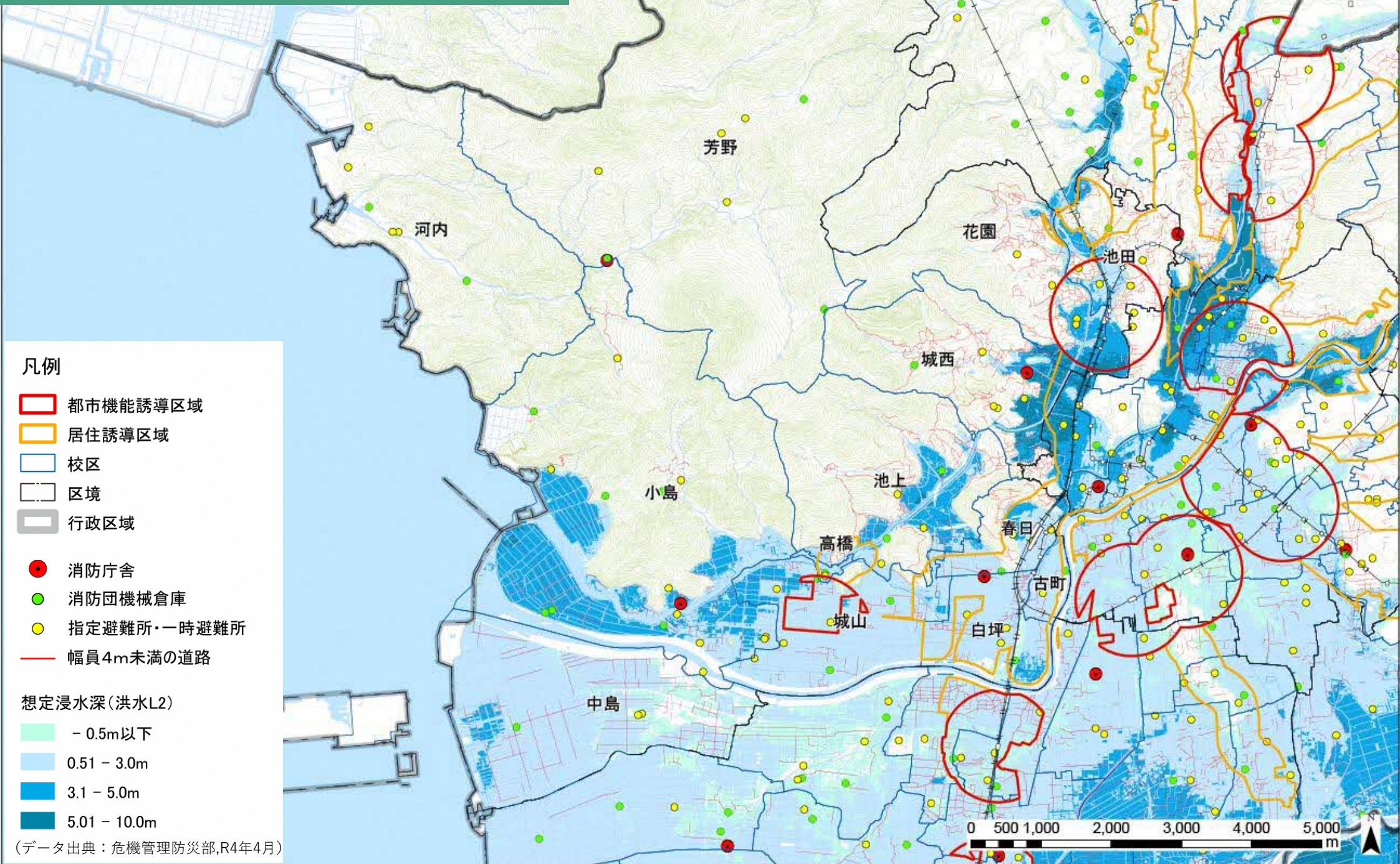
■ 5.01 - 10.0m

(データ出典：危機管理防災部,R4年4月)



地域の現状 (西区全体)

防災(洪水)



地域の現状

(城山校区・高橋校区周辺)

防災(高潮)

- ・高潮による浸水想定では、5 m未満の浸水想定区域が広くみられる。
- ・低層の住宅が多く、避難場所は学校・区役所等が位置付けられている。

凡例

■ 城山校区・高橋校区

□ 区境

□ 町丁目境

■ 都市機能誘導区域

■ 居住誘導区域

■ 市街化区域

● 指定避難所・一時避難所

● 消防団機械倉庫

— 幅員4m未満の道路

建物の地上階数

■ 1階

■ 2階

■ 3階以上

想定浸水深(高潮)

■ 0.3m未満

■ 0.3m以上0.5m未満

■ 0.5m以上1.0m未満

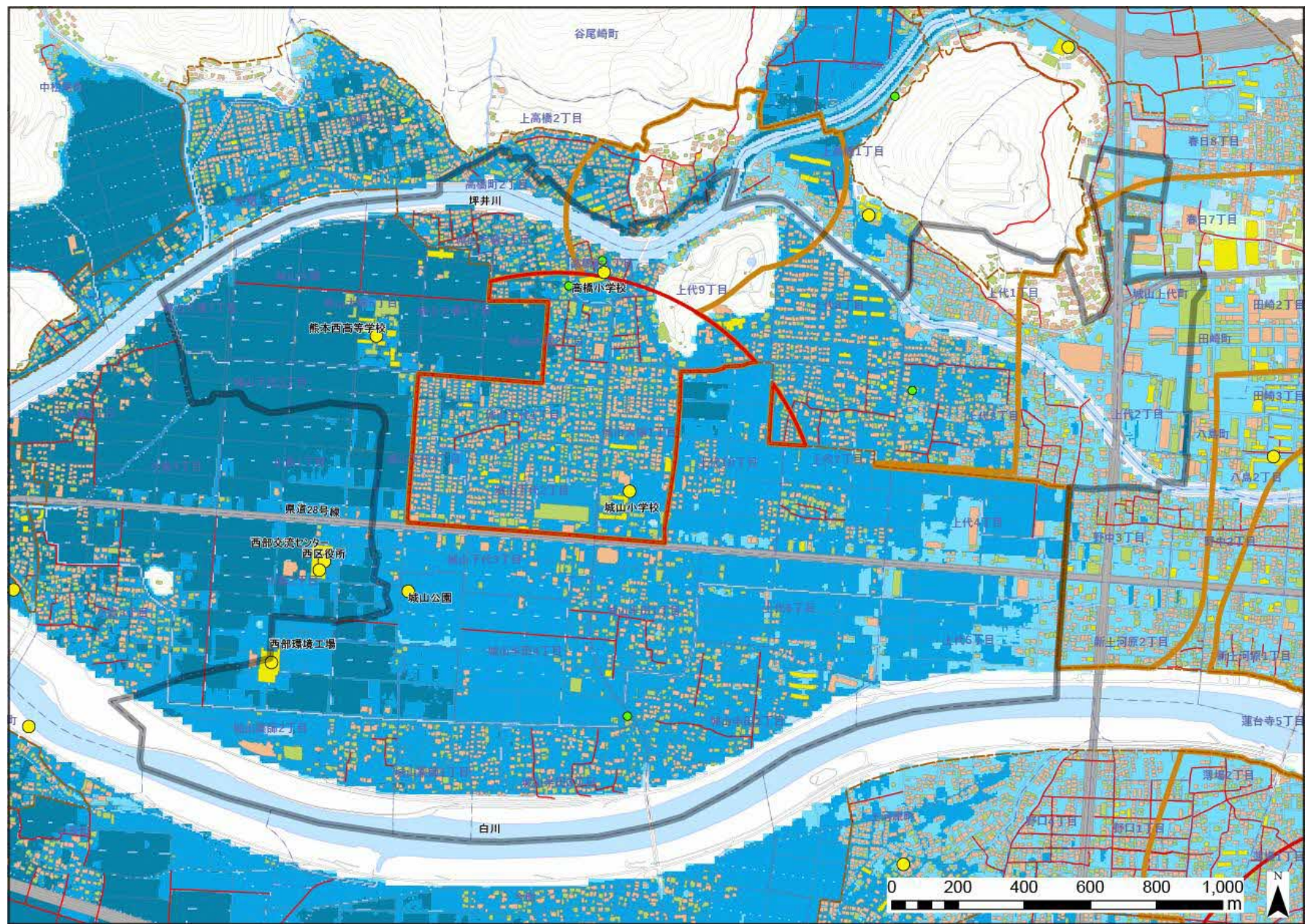
■ 1.0m以上3.0m未満

■ 3.0m以上5.0m未満

■ 5.0m以上10.0m未満

■ 10.0m以上20.0m未満

(データ出典：危機管理防災部,R4年4月)



地域の現状 (西区全体)

防災(高潮)

凡例

都市機能誘導区域

居住誘導区域

校区

区境

行政区域

消防庁舎

消防団機械倉庫

指定避難所・一時避難所

幅員4m未満の道路

想定浸水深

0.3m未満

0.3m以上0.5m未満

0.5m以上1.0m未満

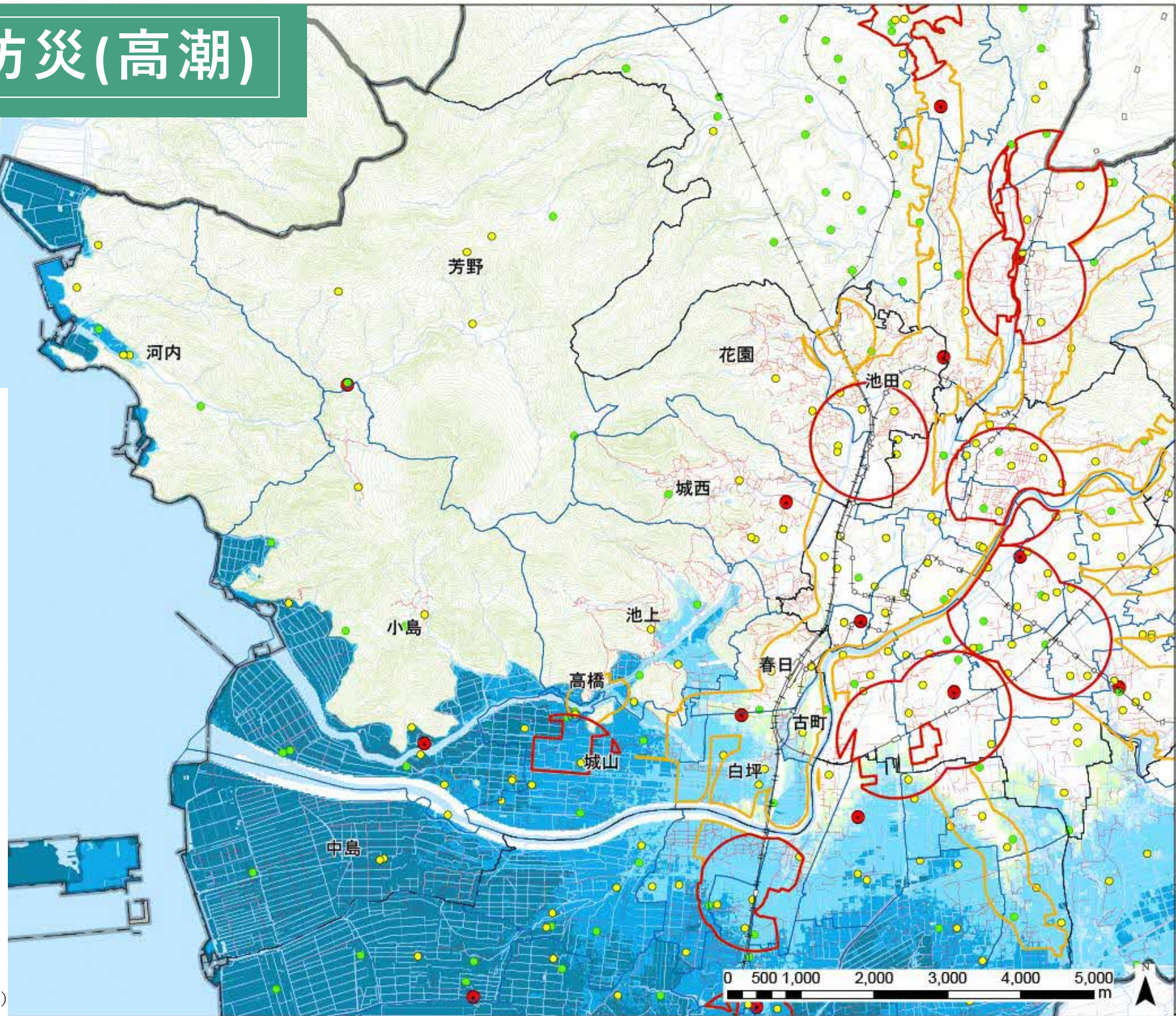
1.0m以上3.0m未満

3.0m以上5.0m未満

5.0m以上10.0m未満

10.0m以上20.0m未満

(データ出典：危機管理防災部,R4年4月)



地域の現状

(城山校区・高橋校区周辺)

防災(土砂災害)

- ・城山、独鈷山、金峰山の外縁部沿いに土砂災害の危険区域が指定されている。

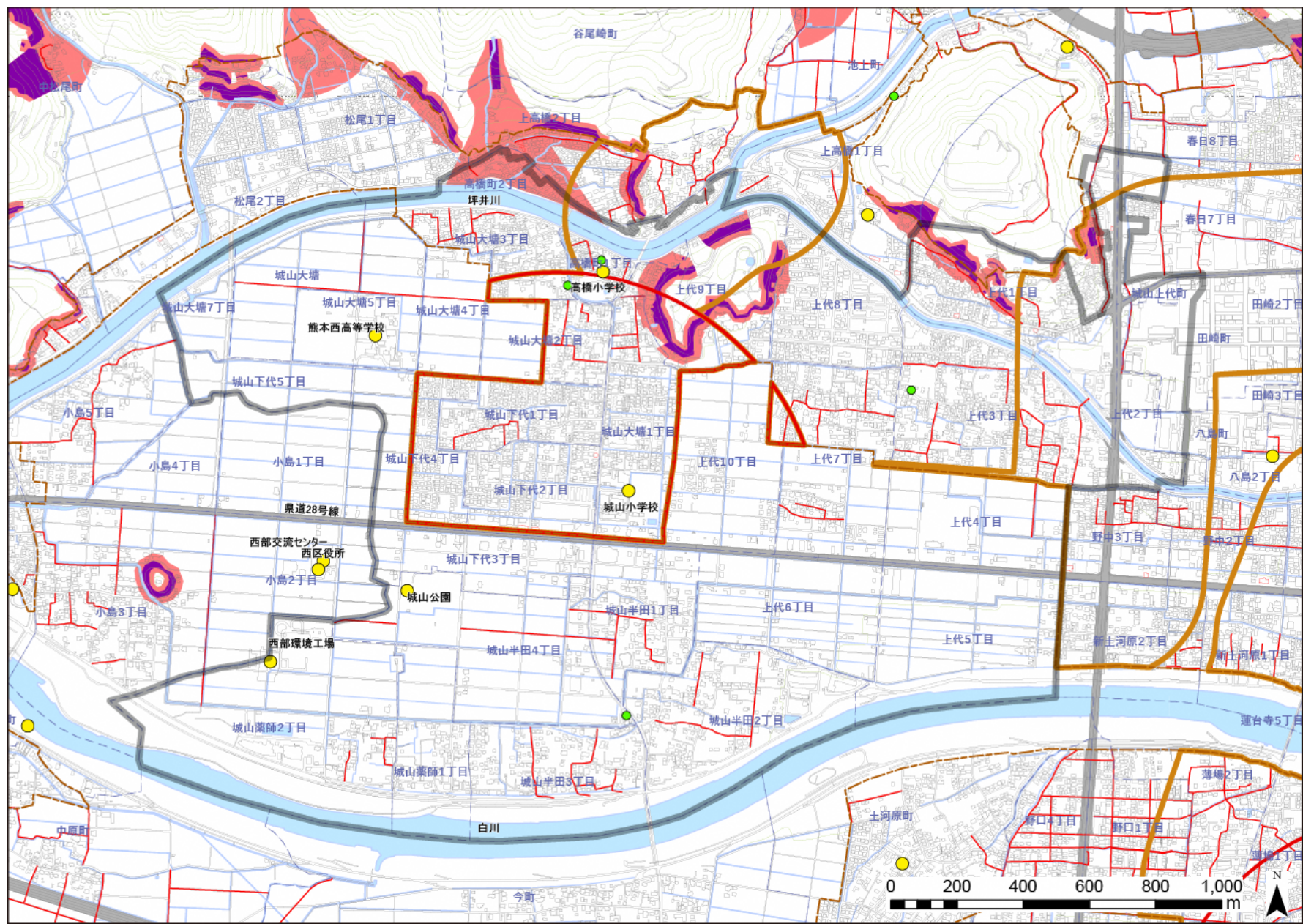
凡例

- 城山校区・高橋校区
- 区境
- 町丁目境
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 市街化区域
- 指定避難所・一時避難所
- 消防団機械倉庫
- 幅員4m未満の道路

災害想定(土砂災害)

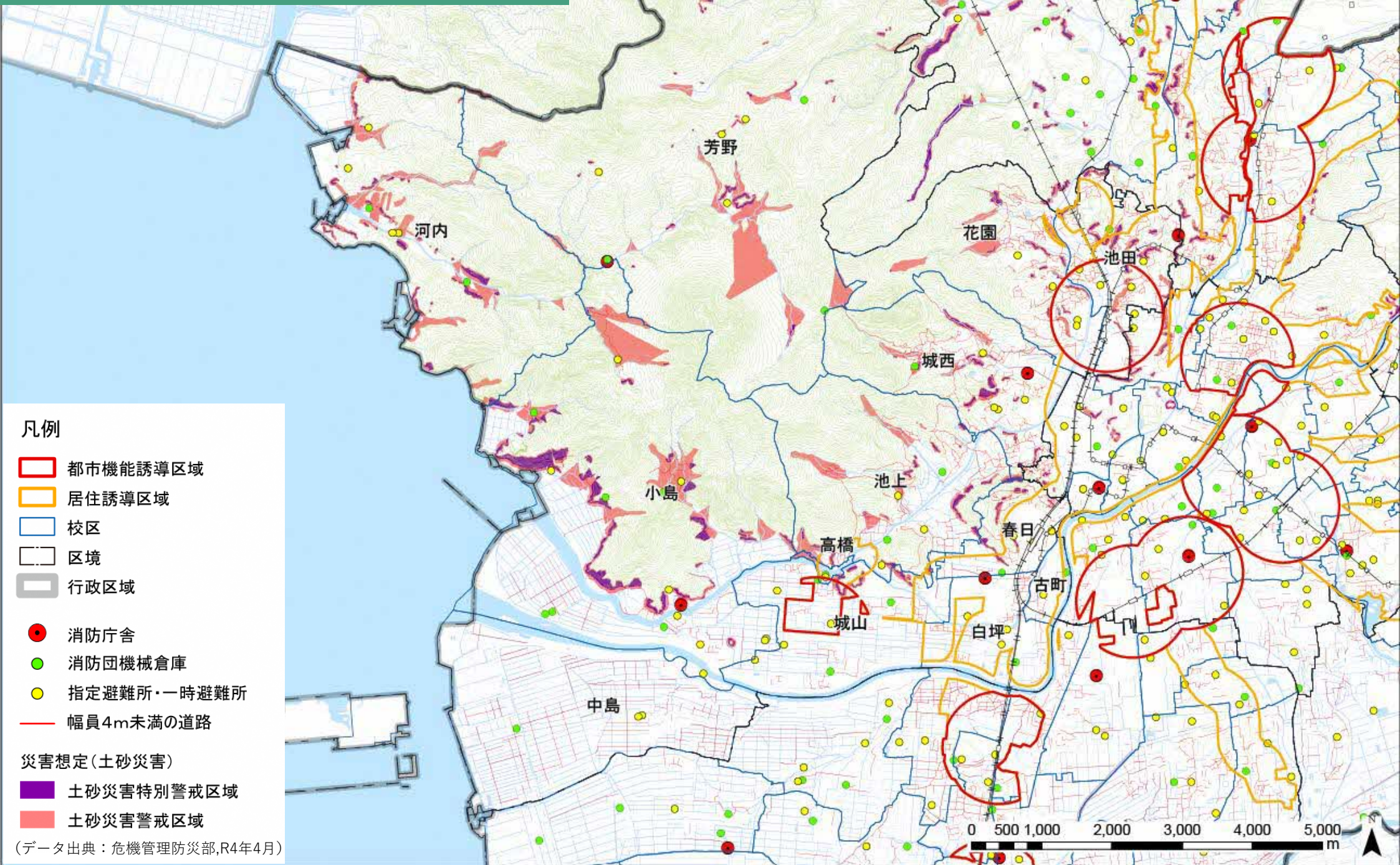
- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域

(データ出典：危機管理防災部,R4年4月)



地域の現状 (西区全体)

防災(土砂災害)



地域の現状

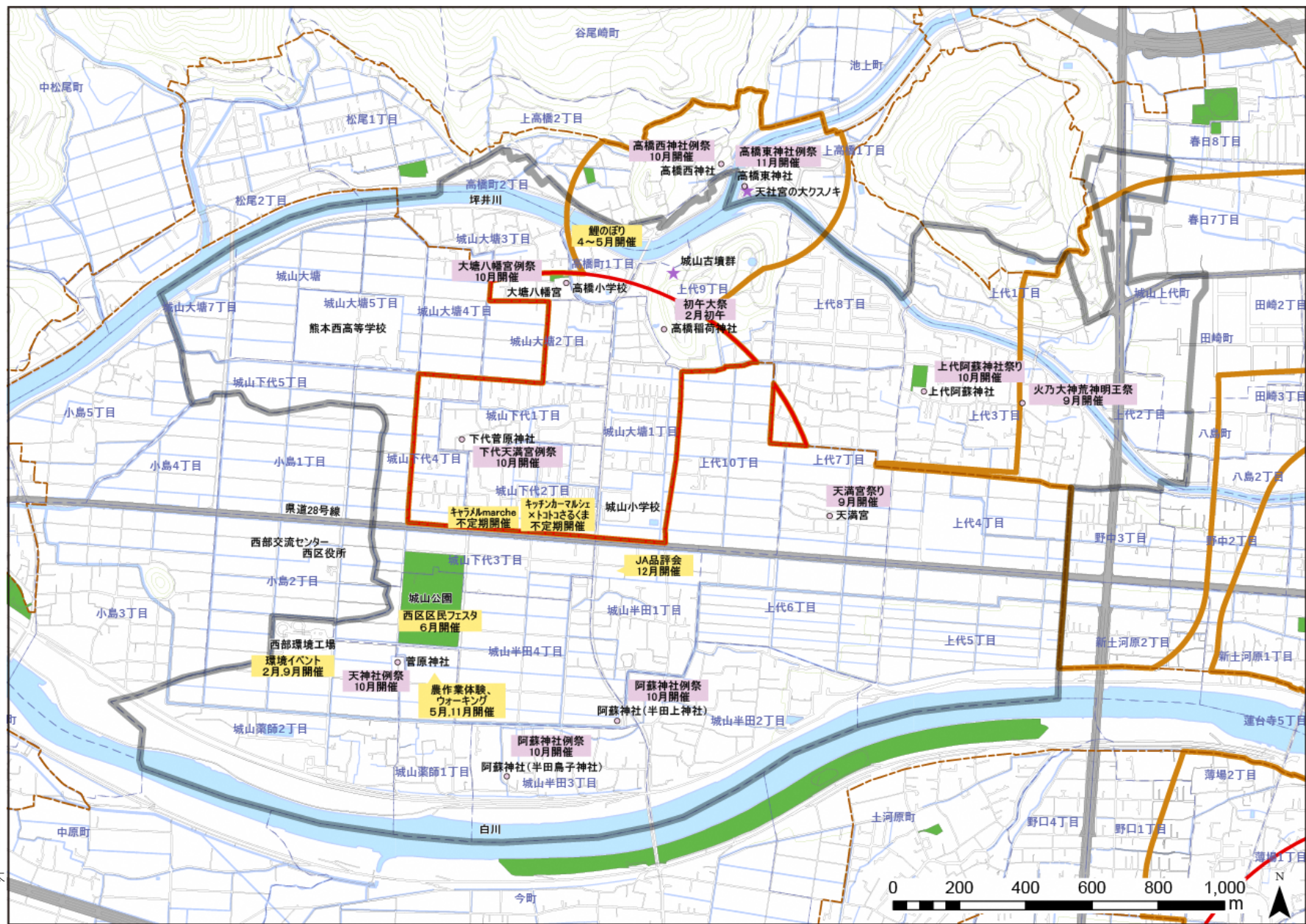
(城山校区・高橋校区周辺)

地域行事

伝統的祭事や地域イベントが各所で行われている（神社、公園、学校、その他公共施設、商業施設、農地など）

凡例

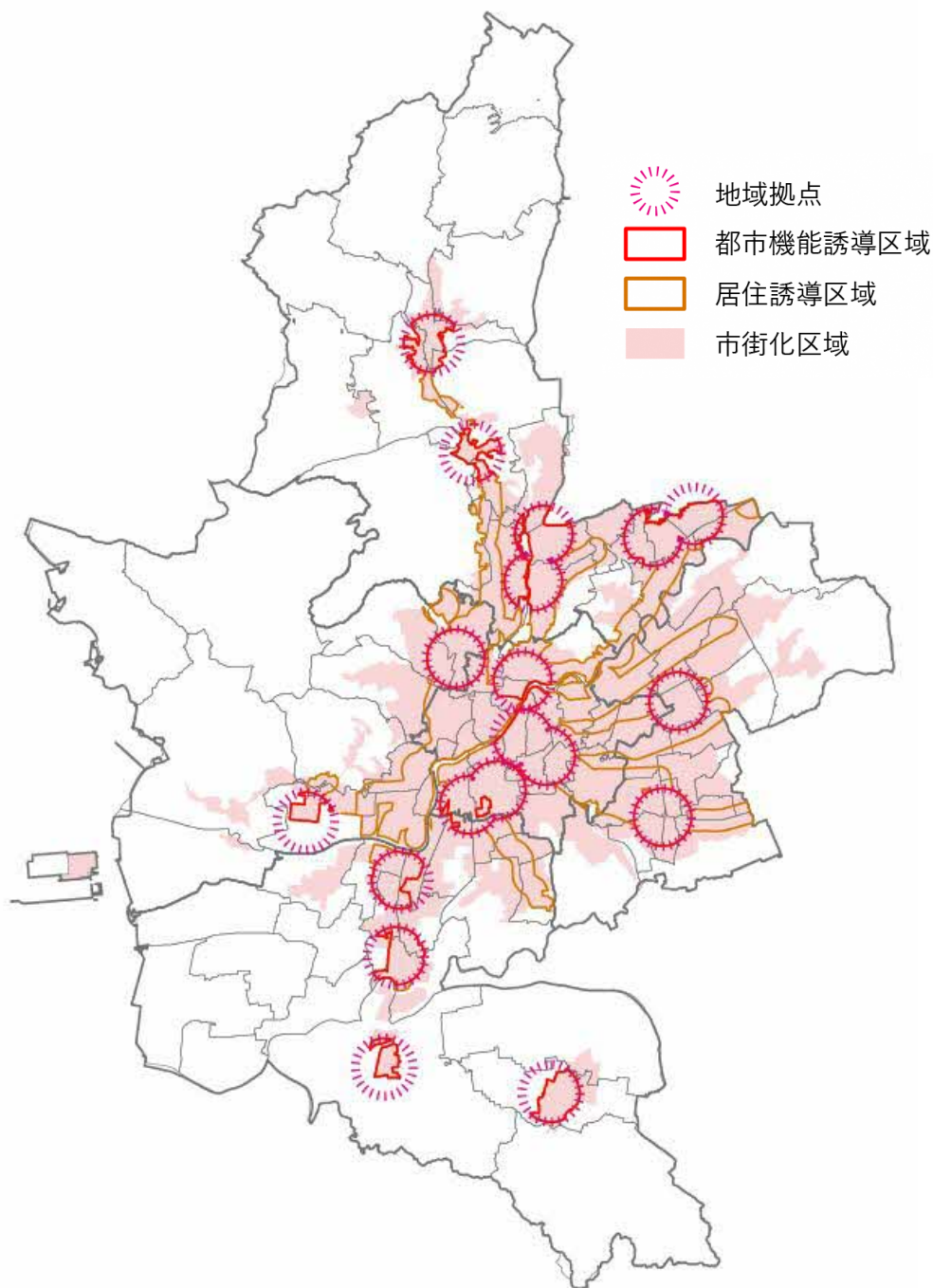
- 城山校区・高橋校区
- 区境
- 町丁目境
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域
- 市街化区域
- ★ 観光・歴史資源
(R3都市計画基礎調査より)
- 伝統的祭事 (※)
- 地域イベント



※『熊本市内祭り・郷土芸能調査報告書』より引用 熊本市歴史文書資料室所蔵本（神社への聞き取りにより一部編集）

拠点間の比較

地域拠点のうち、都市機能誘導区域を対象とした15拠点間の相対的な比較データ

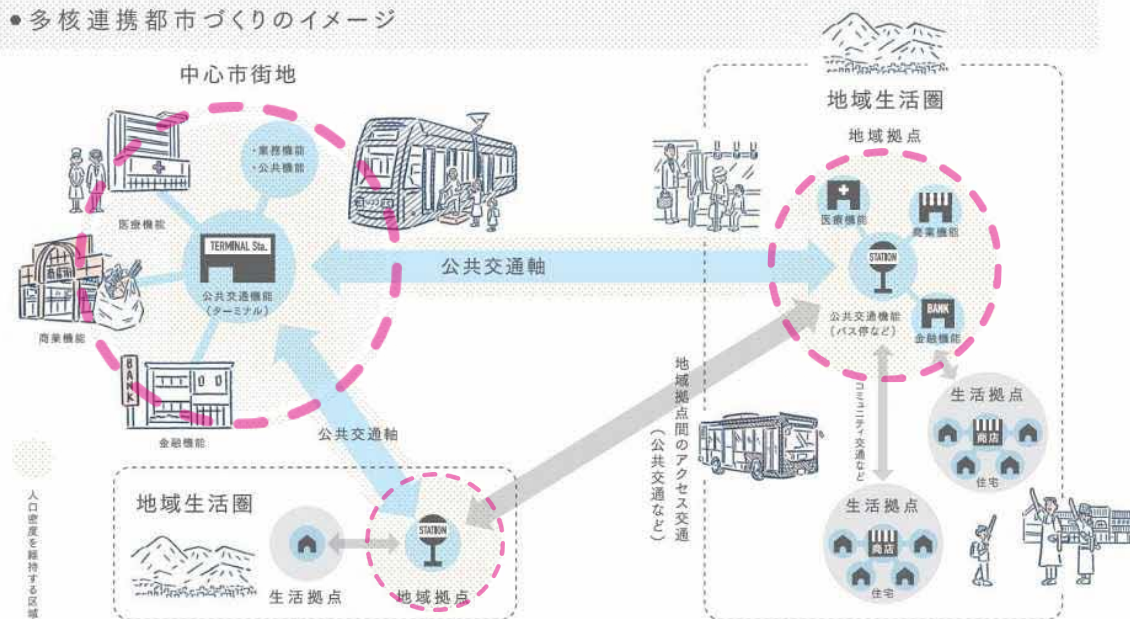


都市機能誘導区域とは、商業・医療等の日常生活サービス機能を都市の拠点で維持・確保することにより、必要なサービスを受けることが出来る区域です。

区域内に日常生活サービスが持続的に確保されることで、郊外部を含めた地域生活圏全体の生活利便性が確保されます。また、誘導区域相互が利便性の高い公共交通で結ばれることにより、移動しやすく暮らしやすい多核連携都市が形成されるとともに、都市全体の活力の向上が期待されます。

出典：熊本市立地適正化計画

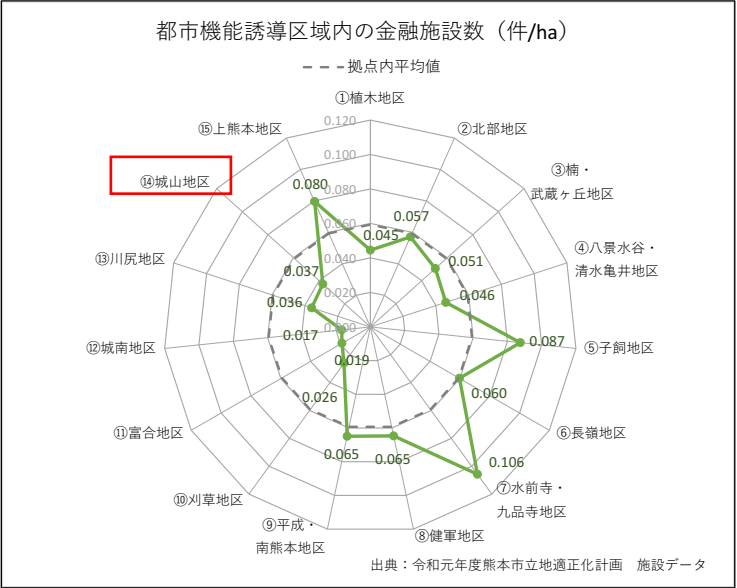
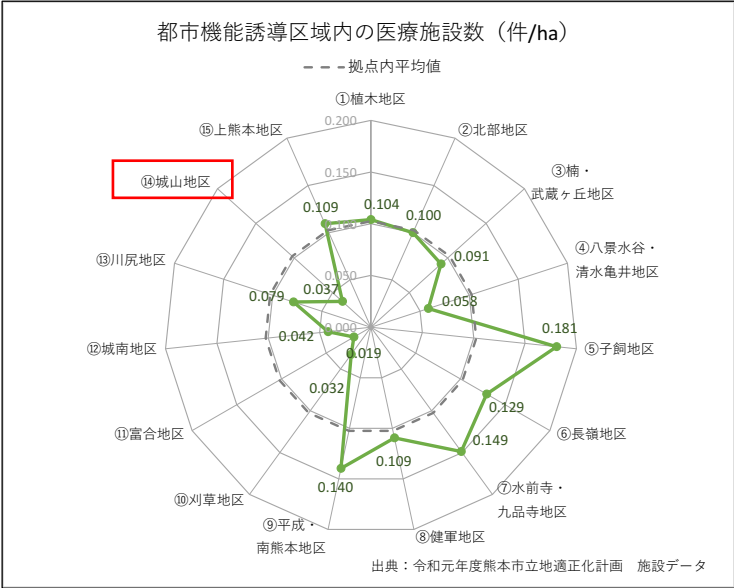
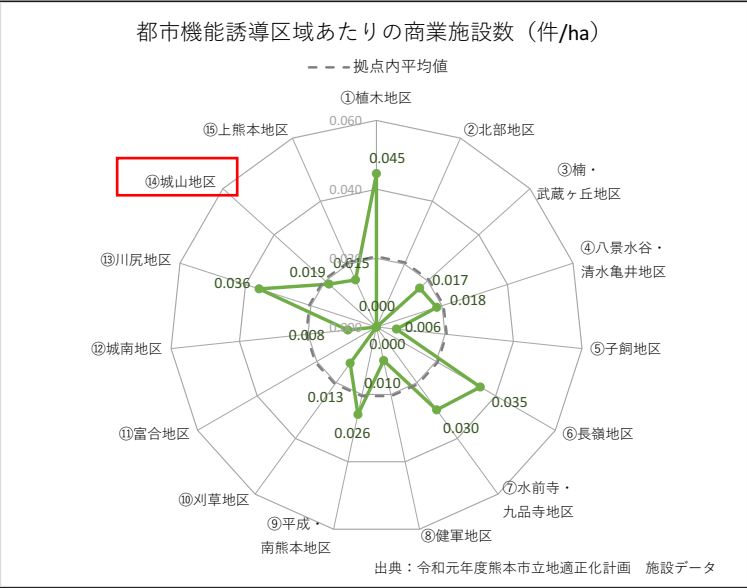
●多核連携都市づくりのイメージ



出典：熊本市第7次総合計画ガイドブック

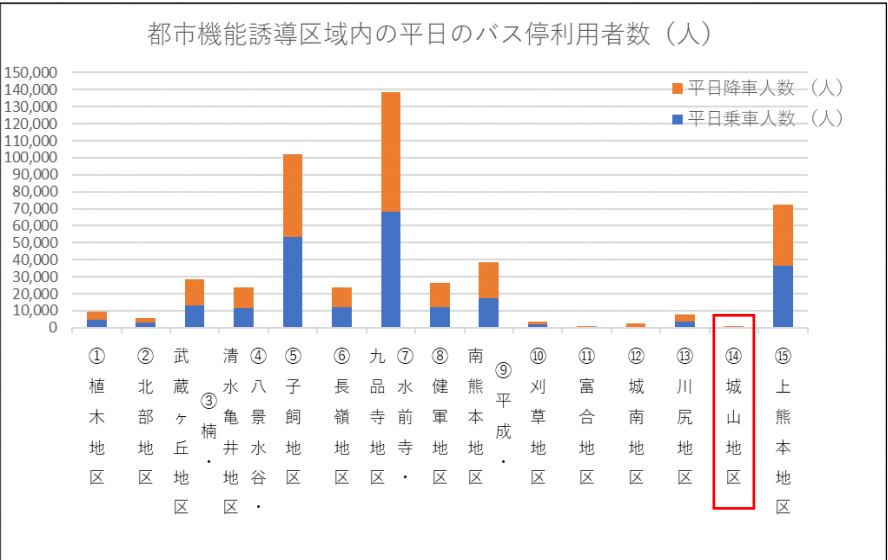
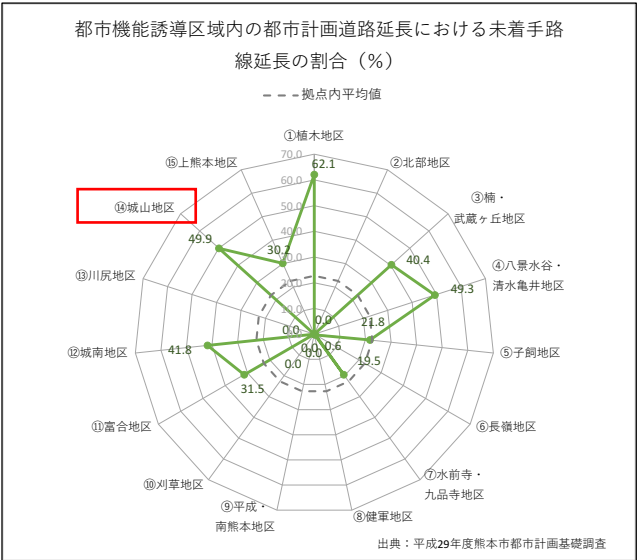
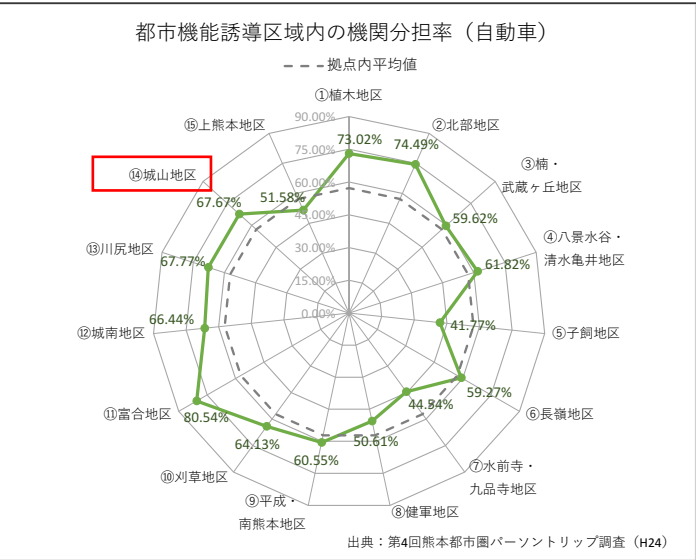
①都市機能

- ・ 医療施設数や金融施設数が低い状況である。
- ・ 地域拠点内の住居系用途地域の割合が最も高い（97.5%）



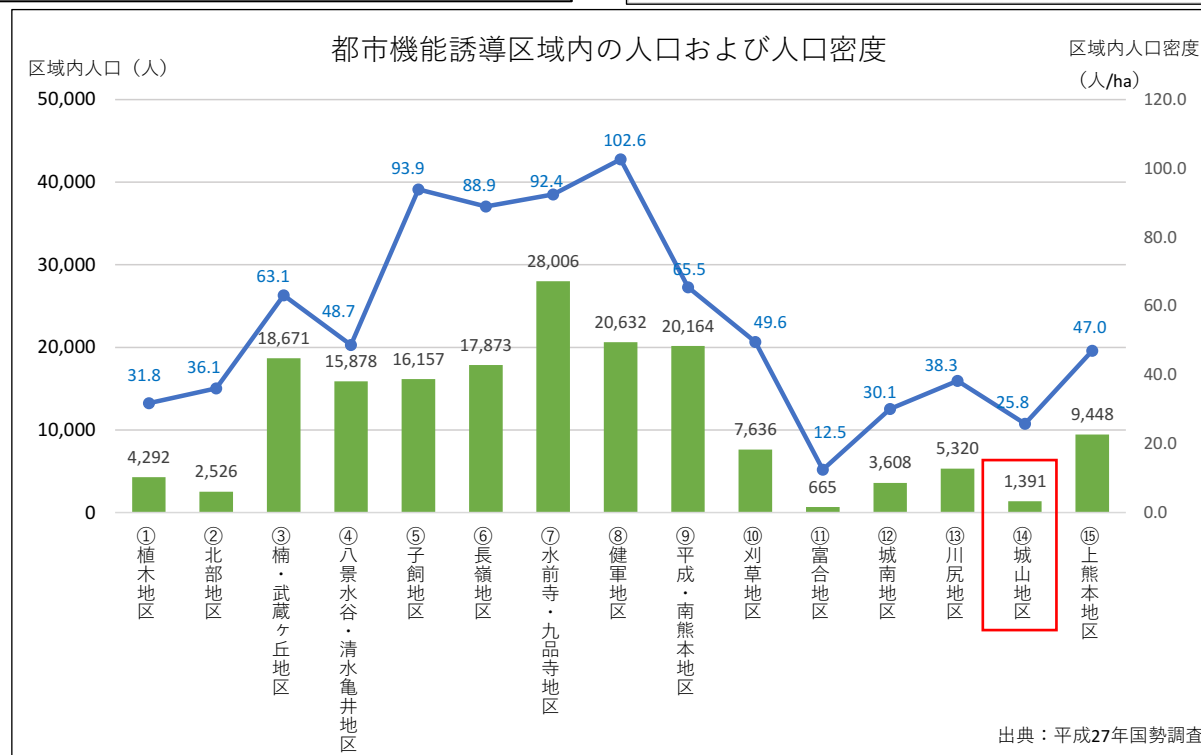
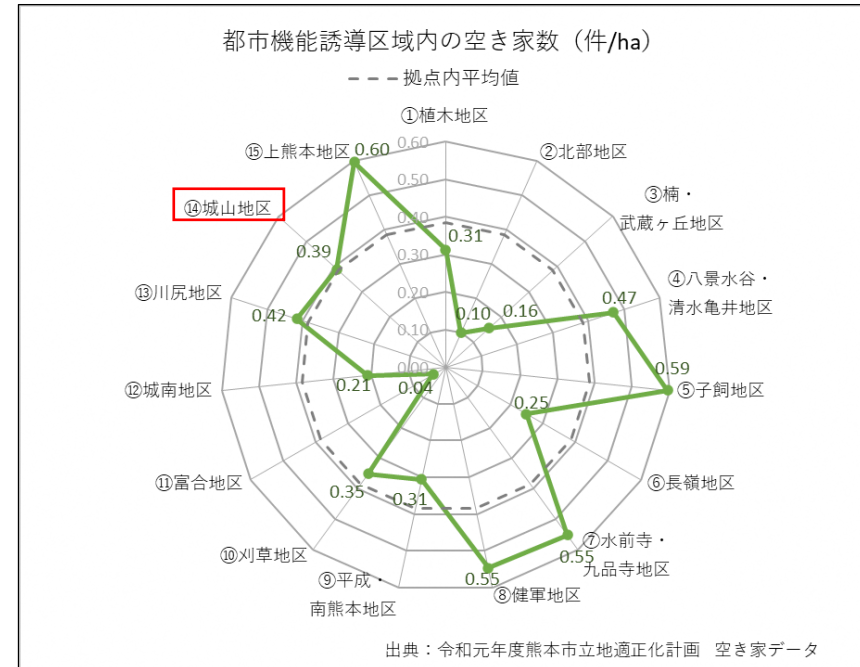
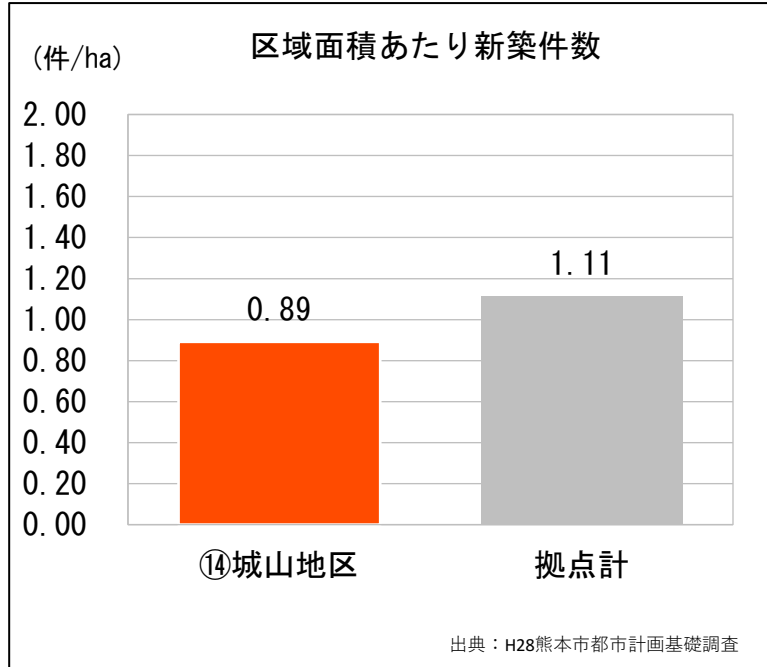
②交通

- ・ バス停数が少なく、バスの利用者も少ない。
- ・ 自動車の分担率が高く自動車への依存が高いことがわかる。
- ・ 都市計画道路の未着手道路延長率が高い。砂原四方寄線が概ね10年以内（2028年以内）に着手予定。



③居住

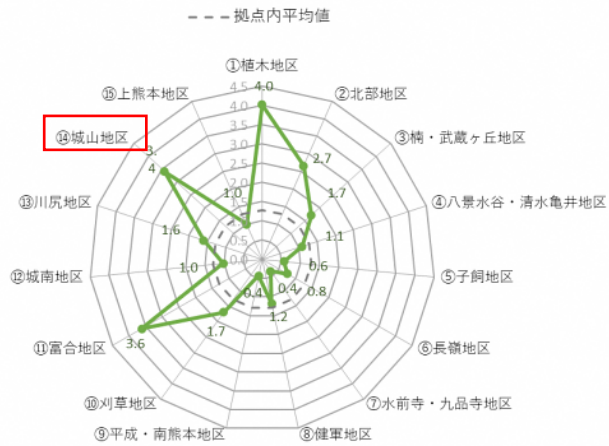
- ・ 空家数が比較的多い。
- ・ 人口密度が低い
- ・ 面積当たりの新築件数が低い。



④にぎわい交流

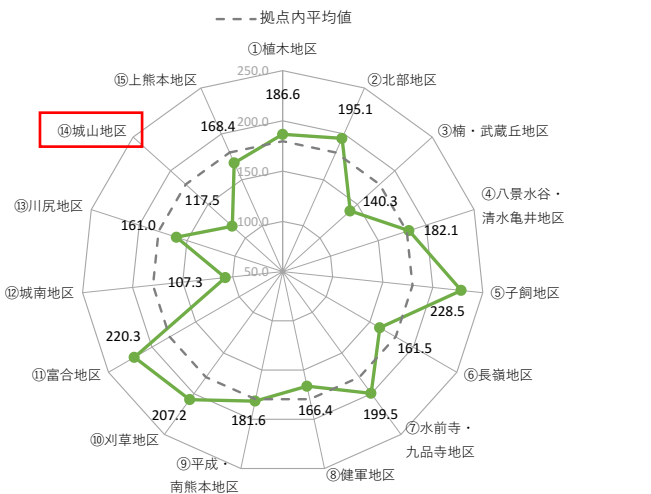
- ・ 1次産業従業者数が多い。
- ・ 城山地区への往来は私用目的が比較的多いが、滞在時間が比較的に短い。

都市機能誘導区域面積あたりの従業者数_1次産業（人）



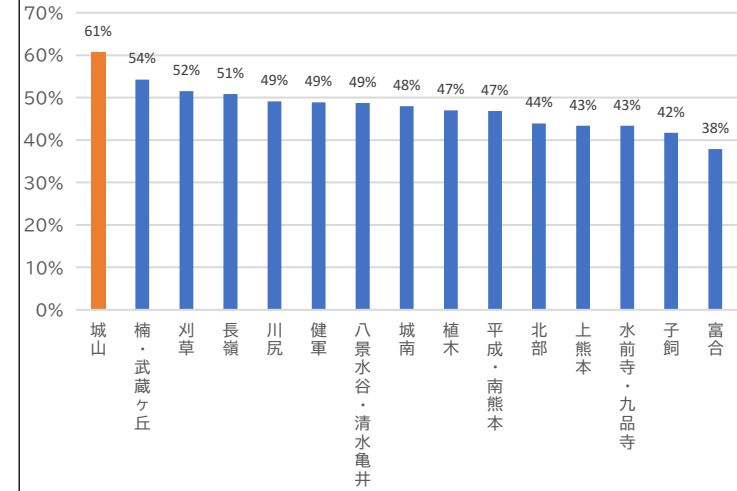
出典：平成27年国勢調査

都市機能誘導区域内滞在時間：分（私用目的）



出典：第4回熊本市都市圏パーソントリップ調査（H24）

都市機能誘導区域内の目的別集中量（私用）[%]

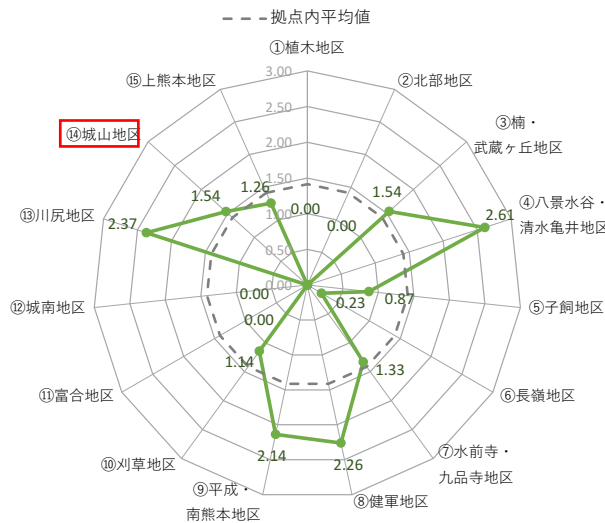


出典：第4回 熊本市都市圏パーソントリップ調査（H24）、算出方法：PT調査結果を用いて、各拠点への目的行動をトリップ数で集計し、割合を算出

⑤歴史文化・景観

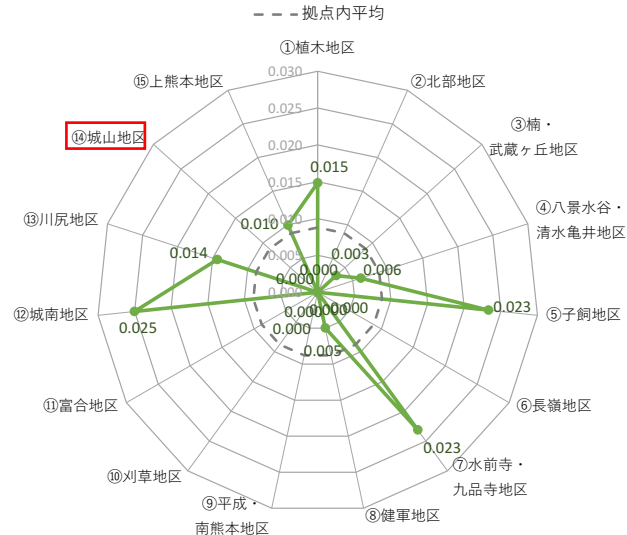
- ・ 区域内の公園面積割合が比較的高い
- ・ 区域内に景観・歴史資源が無い

都市機能誘導区域内の公園面積の割合（%）



出典：平成29年度熊本市都市計画基礎調査

都市機能誘導区域面積あたりの景観・歴史資源件数（件/ha）

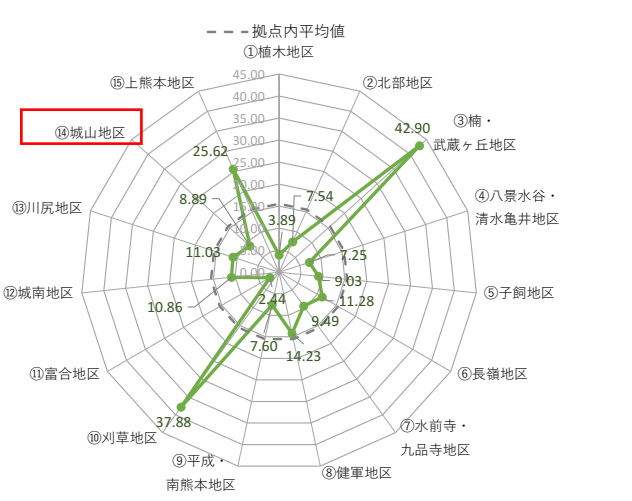


出典：平成29年度熊本市都市計画基礎調査、熊本市提供資料

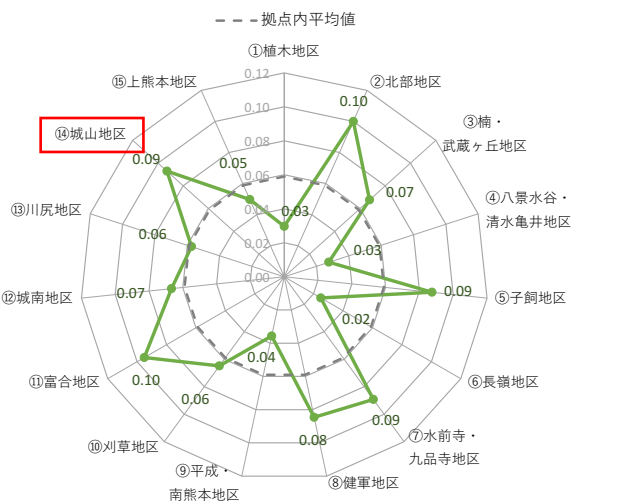
⑥防災

- 過去の災害発生区域の割合は比較的低い
- 区域内面積あたりの避難施設件数は比較的高い。
- 将来の高齢化率が拠点平均よりも高い。

都市機能誘導区域内の過去の災害発生区域の割合（％）



都市機能誘導区域面積あたりの避難施設件数（件/ha）



都市機能誘導区域内の将来2040年の高齢化率（％）

